

大和村、宇検村、瀬戸内町、龍郷町の奄美大島4町村は、男女共同参画推進総合計画の策定に向けて住民の意識や現状を把握するため、共同で調査を実施しました。

男女共同参画に 関する住民意識 調査結果の概要

2024年3月

瀬戸内町

目 次

I 調査の概要	
1 調査の目的	1
2 調査の方法	1
3 回答者の属性	1
II 調査結果	
1 男女の地位の平等感について	2
（1）各分野の男女の地位の平等感	2
（2）男女の地位が不平等と感ずること	8
2 固定的な性別役割分担意識について	10
（1）性別による固定的な役割分担に対する考え方	10
（2）性別による固定的な役割分担を肯定する理由	11
（3）性別による固定的な役割分担を否定する理由	12
（4）女性が職業を持つことに対する考え	13
3 家庭生活・地域活動について	14
（1）家事、育児、介護・看護、地域活動における夫婦の役割分担	14
（2）男性が家庭や地域活動に積極的に参加するために必要なこと	17
4 子育てに関する考え方について	18
5 職業生活について	20
職場における性別による格差の状況	20
6 ジェンダーに起因する暴力について	22
（1）交際相手や元交際相手から暴力を受けた経験	22
（2）配偶者や元配偶者からの暴力を受けた経験	23
（3）暴力を受けたときの相談先	25
7 男性としての生きづらさについて	26
（1）男性としての生きづらさや不便さ	26
（2）男性として生きづらさや不便さを感じるこ	27
8 生活上の困難について	28
（1）相談窓口に必要な配慮	28
（2）生活上の不安や困難	30
9 男女共同参画施策について	33
男女共同参画社会を実現するために役場が力を入れていくべきこと	33
10 男女共同参画社会の実現に向けての意見・要望	35
参考 男女共同参画に関する住民意識調査票	37

「前回」：2018 年度に瀬戸内町が実施した『男女共同参画に関する町民意識調査』の結果
「奄美大島(4)町村」：2023 年度に大和村、宇検村、瀬戸内町、龍郷町が実施した
『男女共同参画に関する住民意識調査』の集計結果
「県」：2021 年度に鹿児島県が実施した『男女共同参画に関する県民意識調査』の結果
「全国」：2022 年度に内閣府が実施した『男女共同参画に関する世論調査』の結果

I 調査の概要

1 調査の目的

住民の男女平等感やジェンダーに関する意識、家庭や職場、地域における現状、抱えている困難な問題を把握し、男女共同参画社会の形成に向けた施策や地域づくりの参考にする。

2 調査の方法

- (1) 対 象 18 歳以上で瀬戸内町に居住する住民
- (2) 抽出方法 住民基本台帳からの無作為抽出
- (3) 回収状況 配布数：2,600 回収数：611（回収率 23.5%） 有効回収数：607（有効回収率 23.3%）
- (4) 調査期間 2023 年 8 月 1 日～31 日
- (5) 調査方法 大和村、宇検村、龍郷町の 3 町村と同じ調査票により共同で実施し、郵送による配布・回収

3 回答者の属性 単位：%

(1) 性別

	女 性	男 性	それ以外	無回答
割 合	50.2	47.6	0.0	2.1

(2) 年代

	18～29 歳	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	80 歳以上	無回答
総 計	4.9	7.9	12.0	15.2	25.2	20.1	8.6	6.1
女 性	5.2	10.2	13.1	13.4	26.1	18.0	11.1	2.6
男 性	4.8	5.9	11.4	17.6	25.3	23.2	6.2	5.5

(3) 結婚の状況

	結婚している	事実婚	離別・死別	未婚	無回答
総 計	60.8	1.0	17.5	15.3	5.4
女 性	59.3	1.0	26.2	11.1	2.3
男 性	64.7	1.0	9.0	20.4	4.8

(4) 世帯構成

	単身世帯	夫婦世帯	二世帯世帯	三世帯世帯	その他	無回答
総 計	21.7	38.9	28.8	1.0	1.6	7.9

(5) 夫婦の就労状況

	二人とも仕事がある	自分のみ仕事がある	配偶者のみ仕事がある	どちらも仕事がない	その他	無回答
総計 (n=374)	50.4	14.7	8.8	15.7	2.9	7.5
女性 (n=204)	52.7	8.7	13.6	13.6	2.7	8.7
男性 (n=166)	48.4	20.0	4.2	17.9	3.2	6.3

(6) 仕事の状況

	正規雇用	非正規雇用	自営業主	家族従業者	無職	その他	無回答
総 計	27.8	17.1	13.2	2.1	30.8	1.8	7.1
女 性	20.0	23.9	13.8	2.6	33.8	2.0	3.9
男 性	37.8	10.7	13.1	1.7	29.1	1.7	6.2

※本書では、自営業主と家族従事者を「自営業者」という。

(7) 子どもの年齢（複数回答）

	乳幼児	小学生	中学生	高校・高専生・専門学校・短大・大学生	未婚の子ども	既婚の子ども
総 計	6.9	5.3	3.3	6.6	18.3	24.1
女 性	7.9	6.2	2.6	4.3	19.0	27.2
男 性	6.2	4.5	4.2	9.3	18.0	21.8

注：「小学生」：2011 年 4 月 2 月～2017 年 4 月 1 日生まれ

「中学生」：2008 年 4 月 2 月～2011 年 4 月 1 日生まれ

「未婚の子ども」：2008 年 4 月 1 日以前生まれの未婚（学生除く）

「既婚の子ども」：2008 年 4 月 1 日以前生まれで既婚（学生除く）

Ⅱ 調査結果

1 男女の地位の平等感について

(1) 各分野の男女の地位の平等感

ア 総計

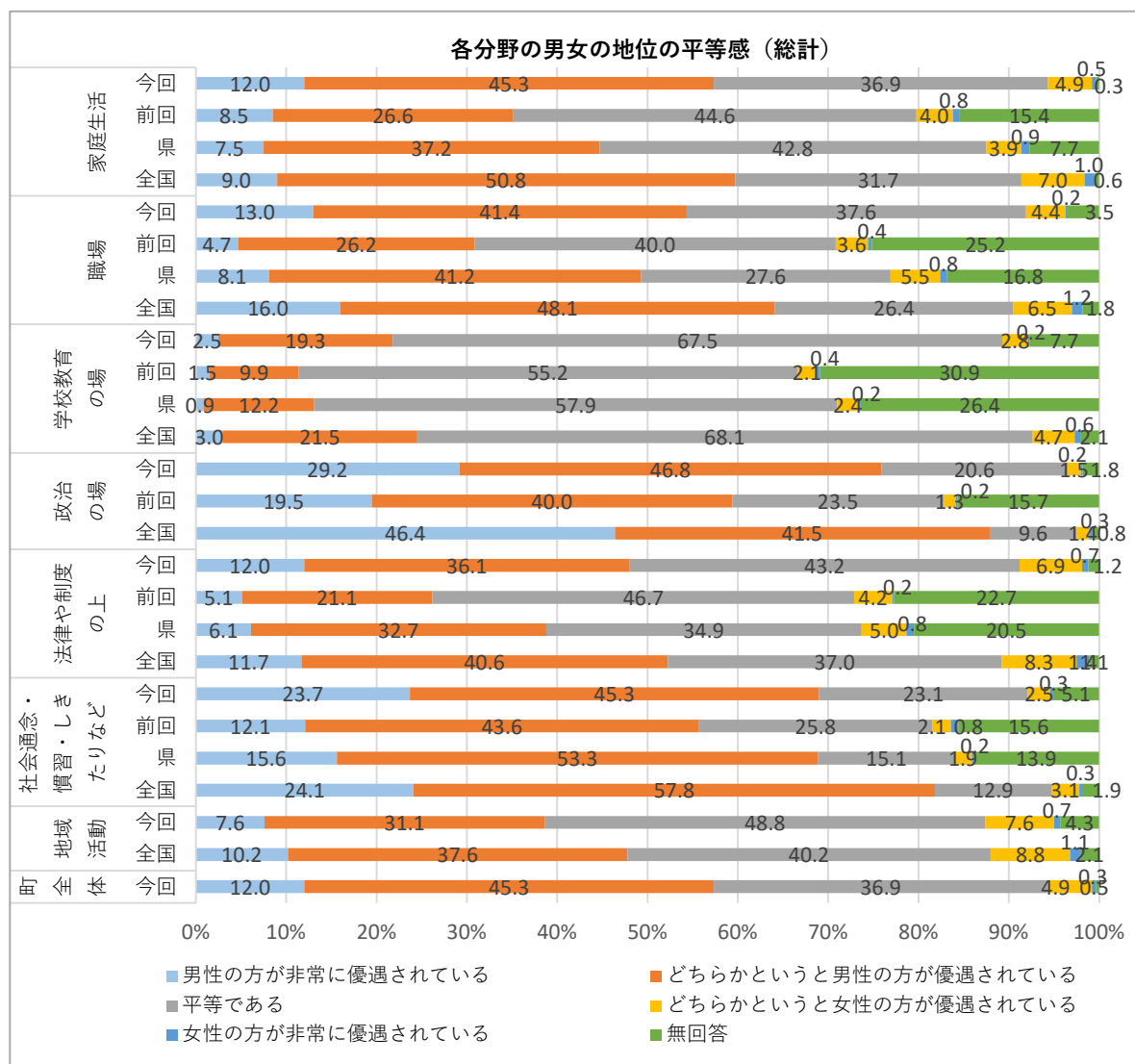
7分野における男女の地位の平等感について訊いたところ、『平等』と回答した割合が高いのは「学校教育の場」。一方、『男性の方が非常に優遇』又は『どちらかといえば男性の方が優遇』(以下『男性優遇』という。)と回答した割合が高いのは「政治の場」、「社会通念・慣習・しきたりなど」、「家庭生活」、「職場」。

イ 前回との比較 ※前回は「地域活動の場」「町全体で見た場合」はなし。

- ・ 前回と比較すると、『平等』と回答した割合は「学校教育の場」で上昇し、それ以外の分野で低下。
- ・ すべての分野で『男性優遇』と回答した割合は上昇し、「職場」、「家庭生活」、「法律や制度の上」は20ポイント以上上昇。

ウ 奄美大島町村・県・全国との比較 ※県は「政治の場」「地域活動の場」「町全体で見た場合」はなし。

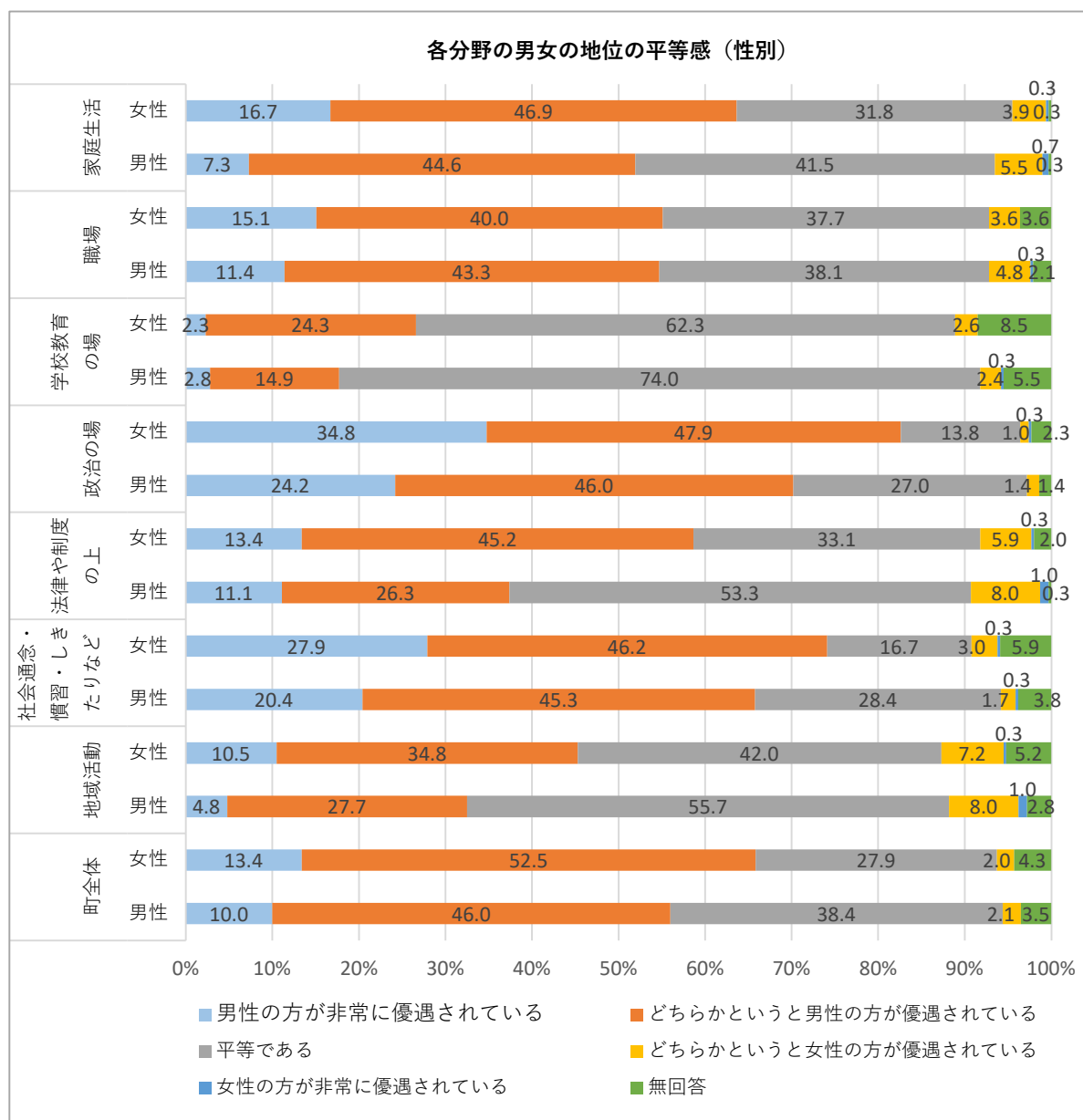
- ・ 奄美大島4町村とほぼ同様の傾向。(グラフ省略)
- ・ 県と比較すると、『平等』と回答した割合は「家庭生活」以外で高い。『男性優遇』はすべての分野で高く、特に「家庭生活」で差が大きい。
- ・ 全国と比較すると、『平等』と回答した割合は(同程度の)「学校教育の場」以外の分野は高い。一方、『男性優遇』と回答した割合は(同程度の)「家庭生活」と「学校教育の場」以外の分野は低い。



エ 性別

すべての分野で『平等』と回答した割合は女性より男性が高く、『男性優遇』と回答した割合は男性より女性が高い。その差が大きい分野は「法律や制度の上」、次いで「地域活動」、「政治の場」。

「町全体で見た場合」も、『平等』と回答した割合は男性の方が高く、『男性優遇』と回答した割合は女性の方が高い。



オ 性・年代別

(ア) 概要

「家庭生活」「職場」「学校教育の場」は男女とも年代が高いほうが、その他の分野は30～50代女性が『男性優遇』と回答した割合が高い傾向にある。一方、29歳以下は『平等』と回答した割合が高い傾向にある。

(イ) 家庭生活

『男性優遇』と回答した割合は、50代以上の女性、60代男性が6割を超え、うち60・70代女性は7割を超えている。

(ウ) 職場

男女とも70代以上が『男性優遇』と回答した割合が高く、6割を超えている。

(エ) 学校教育の場

すべての年代で『平等』と回答した割合が高く、30代以下の女性と50代以下の男性では8割を超えるが、40・60・70代女性の3割以上が『男性優遇』と回答。

(オ) 政治の場

すべての年代で『平等』より『男性優遇』と回答した割合が高く、30～60代女性で8割を超え、うち30～50代は『男性が非常に優遇』が4割超。

(カ) 法律や制度の上

すべての年代の男性と29歳以下の女性で『平等』と回答した割合が高く、80歳以上の男性では7割を超えているが、30代以上の女性は『平等』より『男性優遇』と回答した割合が高く、30・50代で7割を超えている。

(キ) 社会通念、慣習・しきたりなど

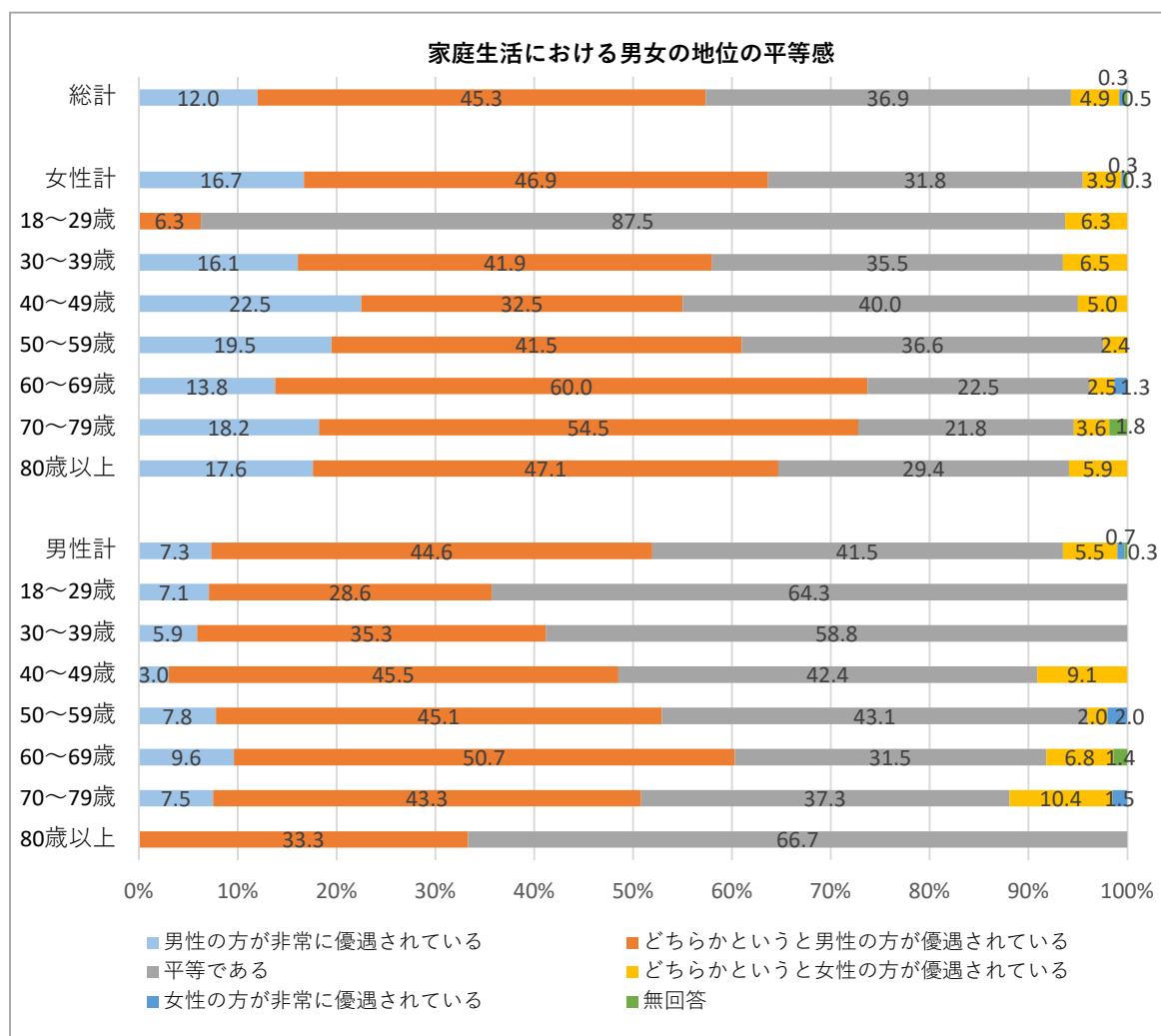
29歳以下の男性以外は『平等』より『男性優遇』と回答した割合が高く、30～50代女性で8割以上、それ以外の年代の女性と40～60代の男性も7割前後。30・40代女性では『男性が非常に優遇』が4割を超えている。

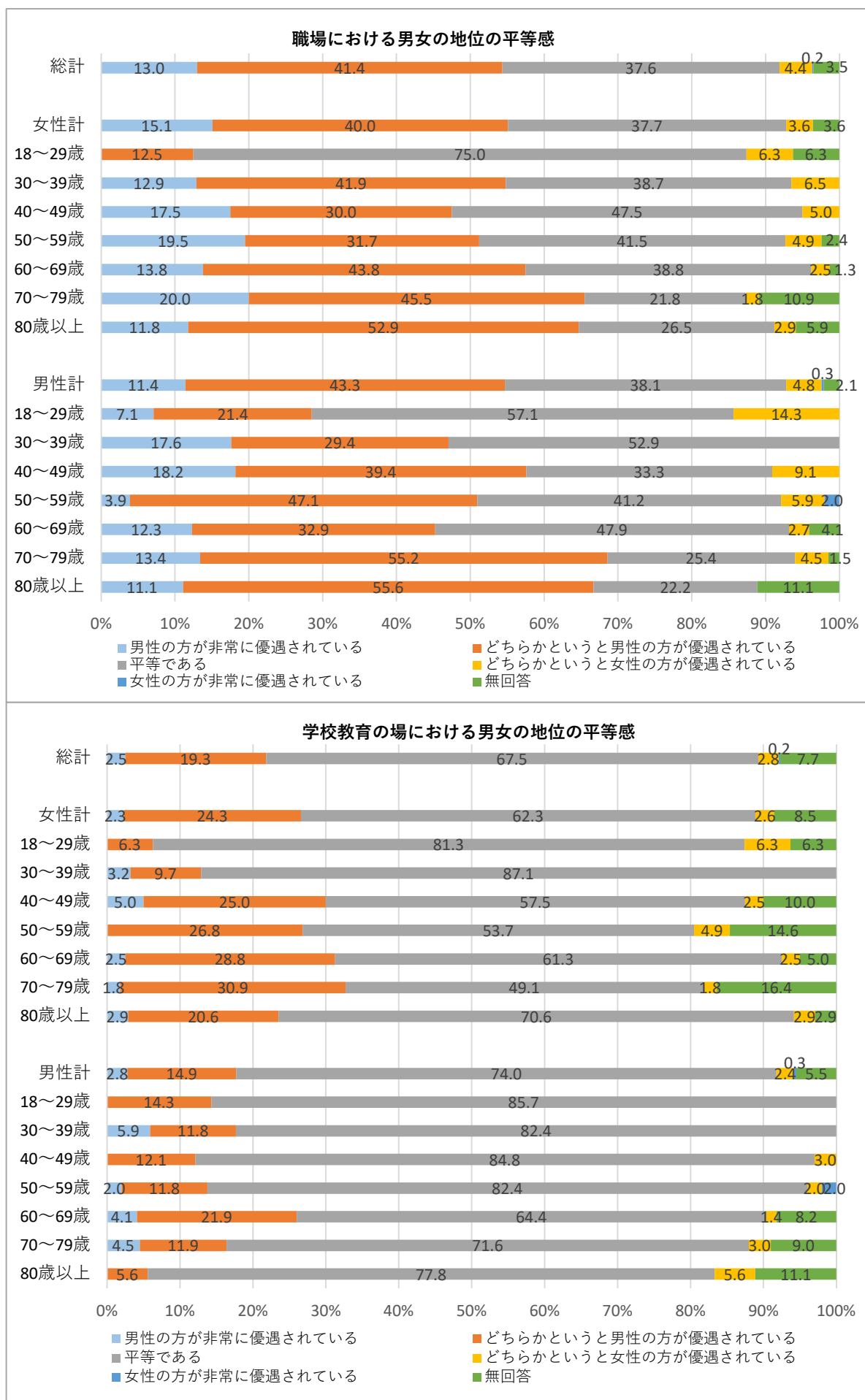
(ク) 自治会やPTAなどの地域活動の場

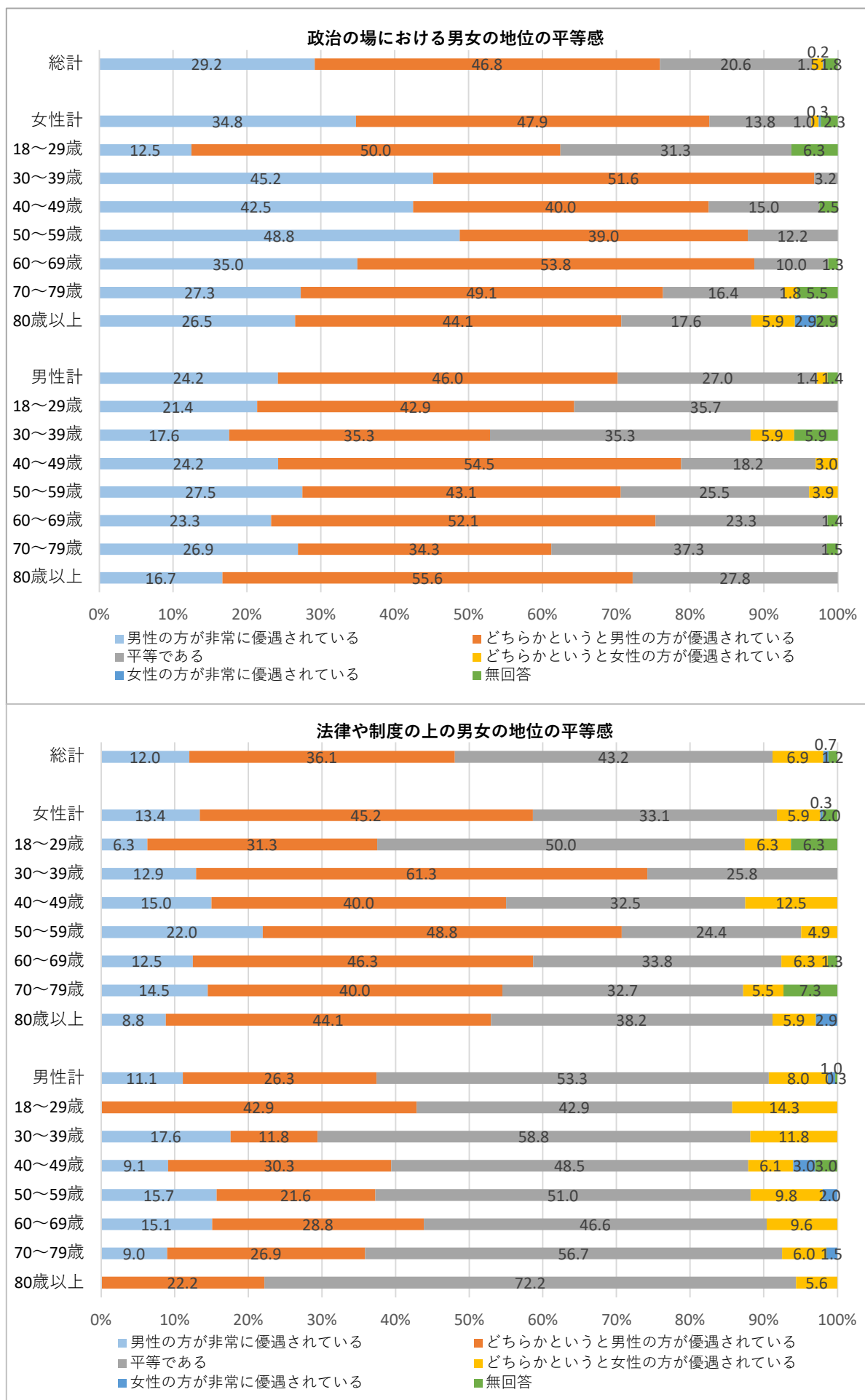
男性はすべての年代、女性は40代以下で『平等』と回答した割合が高い一方、50～70代の女性は、『平等』より『男性優遇』と回答した割合が高く、50代が最も高く56.1%。

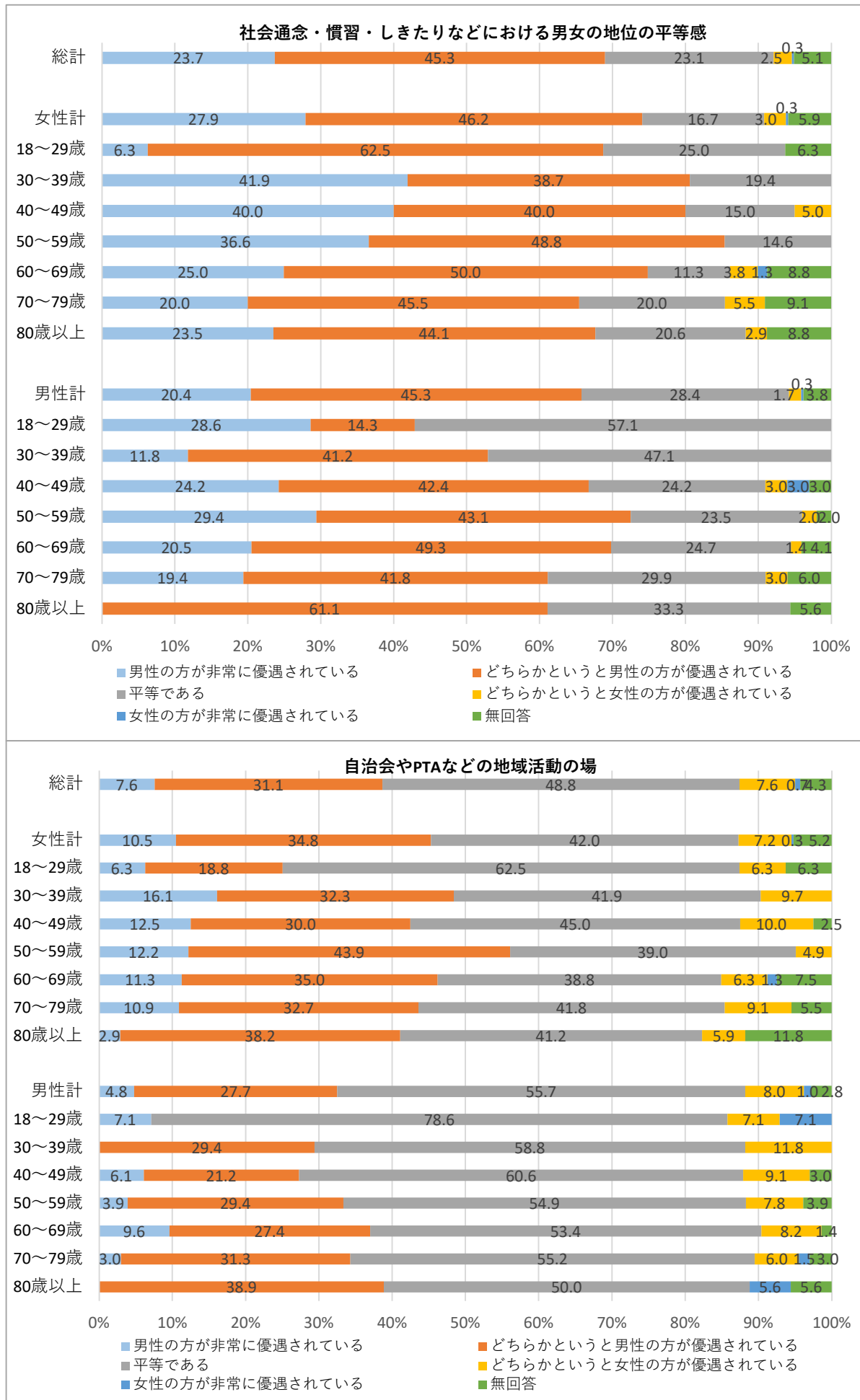
(ケ) 町全体で見た場合

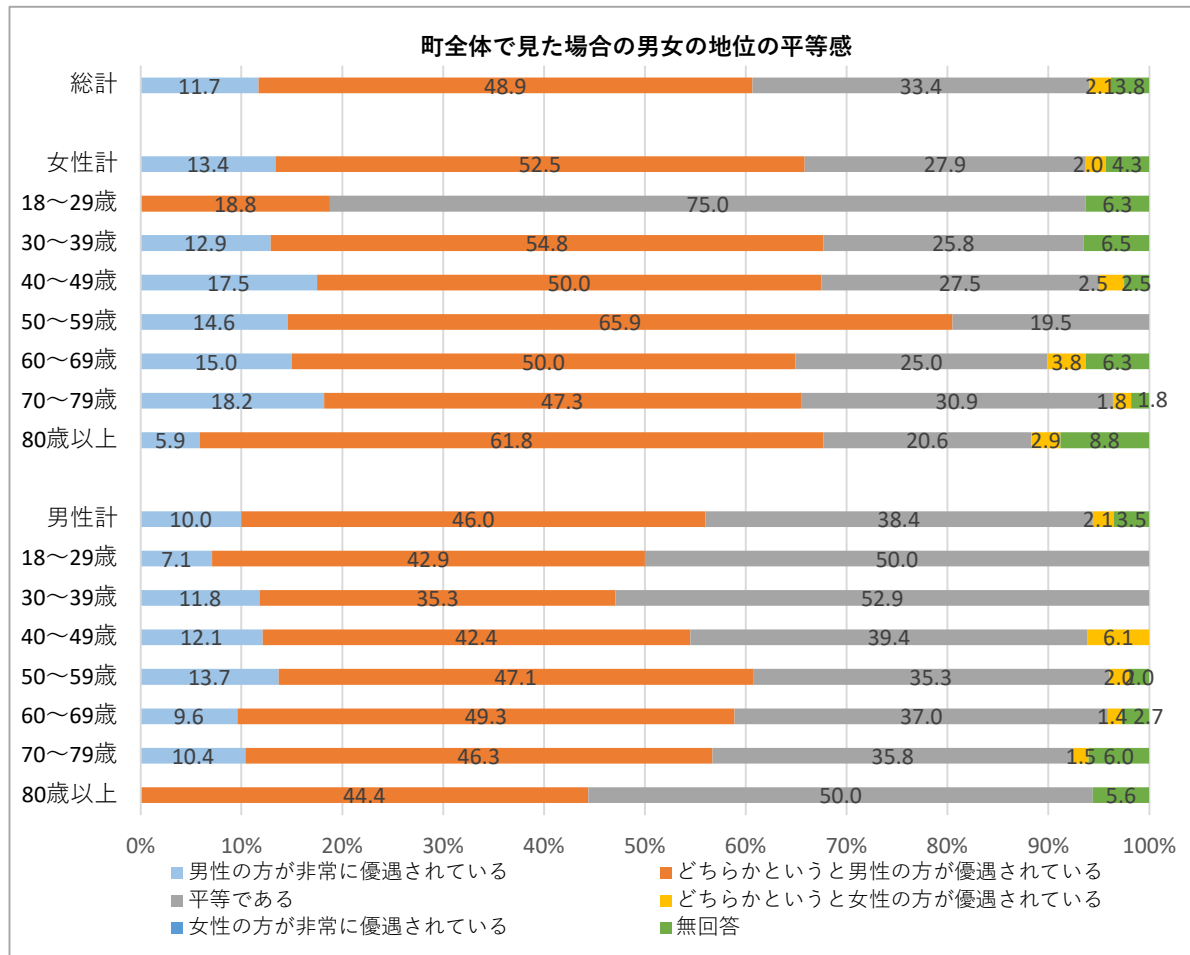
29歳以下の女性、30代以下と80歳以上の男性は『平等』と回答した割合が高いが、その他の性・年代では『平等』より『男性優遇』と回答した割合が高く、女性は50代で80.5%、それ以外の年代でも7割前後。











(2) 男女の地位が不平等と感じていること（主な回答）

男女の地位が不平等と感じていることを聞いたところ、117件の回答があり、主なものは次のとおり。

※紹介している回答は、抜粋したり、同じ内容のものをまとめています。

■家庭生活（22件）

- ・ 子どもが風邪等で仕事を休むのは母親ばかり。(30代女性)
- ・ 家事・子育ては女性がするものという考え・風習、女性の家事・育児・介護負担が重い。(30代以上各年代女性、60・70代・年代不明男性)
- ・ 葬式(40代女性)
- ・ 男性が飲みに行くのは当たり前で、女性が行くと後ろ指を指される。(40代女性)
- ・ 男性は仕事だけしていれば祖父母や親の世代から賞賛され、女性は家庭・職場で何役もこなして当たり前で、もっと男性を立てると言われる。(40代女性)
- ・ 男性自身が、自分のことは自分でい、結婚しても自立できるよう幼少期からの躾が大切。(50代女性)
- ・ 幼児教育や介護に男の参加が難しい。(50代男性)
- ・ 男性は手伝い程度にしか思っていない。(60代女性)
- ・ 風呂は男から入る。共働きでも女性が先に起きて朝食を作る。(60代男性)
- ・ 男性も女性も働いて家庭生活を営んでいるので、家の仕事も平等でないと本当の平等とは言えない。(80代以上女性)

■職場（25件）

- ・ 男性の育休取得が難しい。(30代女性)
- ・ 仕事で失敗した時に個人ではなく「これから女は」と一括りにされてチャンスを失う。(40代女性)
- ・ 前の職場は、女性の体調（生理痛）への理解が低く、有休を取ることも言いにくかった。(40代女性)
- ・ 公的機関や民間企業等の管理職の女性がとて少ない。(40代女性、60代男性)
- ・ 職場の管理職や役員は男性優位、育休の取得など子育ては女性に偏っていると感じる時がある。(50代男性)
- ・ 町内で男性が「育休」や「介護休暇」を取得したという話を聞かない。(60代女性)
- ・ 女性でも能力があり、男性にも負けにくい仕事ができる人もいる。(70代男性)
- ・ 女性に実力があっても管理職にはなれないと思っている職場がある。(70代女性)
- ・ 特に中小企業の労働時間が長過ぎて、女性の家事労働が増える要因となっている。(70代男性)

■学校教育の場（1 件）

- ・ いい学校ほど男女不平等と感じる。(80 代以上女性)

■政治・行政の場（17 件）

- ・ 議会の議員（政治家）、役場の管理職や補佐に女性が少ない。(30～60 代女性, 50～70 代・80 代以上男性)
- ・ 役場では手続きは、夫の方が早く終わる。(50 代女性)
- ・ 政治は男性の立場でしか考えられていないように感じる。(60 代女性)

■法律や制度の上（4 件）

- ・ 苗字の変更(30・70 代女性)
- ・ 離婚時に男性の親権取得が困難。(30 代男性)
- ・ 専業主婦より働く主婦に対して法律は厳しい。(60 代女性)

■社会通念・慣習・しきたりなど（17 件）

- ・ 「女の子が夜の街を歩くものじゃない」と言われた時、「は？」と思った。(20 代女性)
- ・ 会食や集落の飲み会で、女性お接待・お酌をさせられる。(30 代女性, 20 代男性)
- ・ 年配の方の男尊女卑・不平等意識(40 代男性)
- ・ 文化やしきたり、生活の中で男尊女卑なことは島で多く、祖父母や親がそうしてきた歴史から抜け出せていない。(40 代男性)
- ・ 舟こぎ大会の「オープン」と「女子の部」で賞金が違う。(40 代男性)
- ・ 祭や風土的なイベントでは不平等が残っている。(40・50 代男性)
- ・ 他の市町村に比べ男性が優遇されているイメージがある。(50 代男性)
- ・ 法令制度は平等。慣習・しきたりは歴史があるため無理して平等にすべきでなく、ケースバイケースで判断。(50 代男性)
- ・ 若い子連は変えていたり、変わっているような気がする。(40～60 代男性)
- ・ 男の人がよく「女のくせに…」と口にする。(60 代女性)
- ・ 何でも、どこでも「男が先」という風習(60 代女性)
- ・ 慣習、しきたりが男性優遇(60・70 代・年代不明男性)

■自治会や PTA などの地域活動の場（10 件）

- ・ 青年団に比べ婦人会の仕事量にとっても多い。(30 代女性)
- ・ 地域や学校の行事、PTA 活動には女性が行く割合が高い。(30・40 代女性)
- ・ 地域行事では男性は座って飲み、女性が忙しく動いていることが多い。(40 代女性)
- ・ 地域において女性がボランティアに関わることは当たり前との風潮がある。(60 代女性)
- ・ 集落の役員の数が、男性 5 : 女性 2 (80 代以上女性)、全員男性(60 代男性)
- ・ 女性にできない作業が多く、男性は大変だと思う。(70 代女性)
- ・ 公民館や道路の作業は男女関係なくやるのに、公的トイレの掃除は女性のみやっている集落があるらしい。(年代不明女性)

■全体・その他（21 件）

- ・ 今の社会では「男」「女」で不平等が決められず、見るべきは「個」だと思う。(30 代男性)
- ・ 女性の意見が反映されない、通らないことが多い。(30・40 代女性, 年代不明男性)
- ・ 子どもや家庭に関することは女性、他のことは男性が家長として集会や会合に参加することが多い。(40 代女性)
- ・ 家事の負担が大きくて働きづらく女性が多かったり、PTA 活動の交流や懇談の席は男性の参加が多く、その時女性の多くは家で子どもを見ているなど、まだまだ社会は男性中心と感じる。(40 代女性)
- ・ 要職に就いているのは男性が大半で、女性だと珍しがられる。(40 代女性)
- ・ 家事・育児を夫・父親は「手伝ってやる」、妻・母親は「手伝ってもらっている」という感覚。男女とも潜在的に男性優位意識。(40 代女性)
- ・ (少しずつ増えているが) 授乳室が男子トイレになかった時。(40 代女性)
- ・ 問い合わせをしてくる人は「男の人はいないか」と言い、男性の意見に納得する。(50 代女性)
- ・ 不平等と思わない。(70 代男性) 自分が年を取って鈍感になったのか、不平等はあまり感じない。(50 代女性)
- ・ コンプライアンスが行き届く職場等では男女はほぼ平等だが、家庭内や地域社会は男性が優遇されている。(50 代男性)
- ・ 男女共同参画を声高らかに叫んでいる間是不平等は解消されない。(50 代男性)
- ・ 集落等の役員に女性が少ないのは、女性が積極的に関わろうとしないことも原因。イベントや会議などいろいろな機会に女性の活躍の場を多く提供してほしい。(60 代女性)
- ・ 高齢者ほど男女共同参画を理解していない。(70 代女性)
- ・ 瀬戸内町においては、男女以前に学識経験者の優遇がひどすぎる。(70 代女性)
- ・ 男と女は違うから家庭や職場でやることは違って平等。力仕事はどうしようもない。(70 代男性)
- ・ 私が 40 代の頃は「女性は家庭」という時代で、現在の男女平等が信じられない。(80 代以上女性)
- ・ 体力的に男性の方が優位。(80 代以上女性)
- ・ 両立、三立、五立しているのは女性。なぜ女性は何でもしなければならぬのか？男女平等なんてない。(年代不明女性)
- ・ 男性は面倒なことや細かいことをしながらず、結論を急ぐことが多い。(年代不明男性)
- ・ 男女平等と言っていることが違和感。(年代不明男性)

2 固定的な性別役割分担意識について

(1) 性別による固定的な役割分担に対する考え方

ア 総計

「男性(夫)は外で働き、女性(妻)は家庭を守るべきである」といった性別を理由に役割を固定的にわける考え方について訊いたところ、「反対」(36.2%)と「どちらかという反対」(34.4%)を合わせた『否定』と回答した割合が70.7%、「どちらかという賛成」(25.4%)と『賛成』(2.5%)を合わせた『肯定』が27.8%。

イ 性別、性・年代別

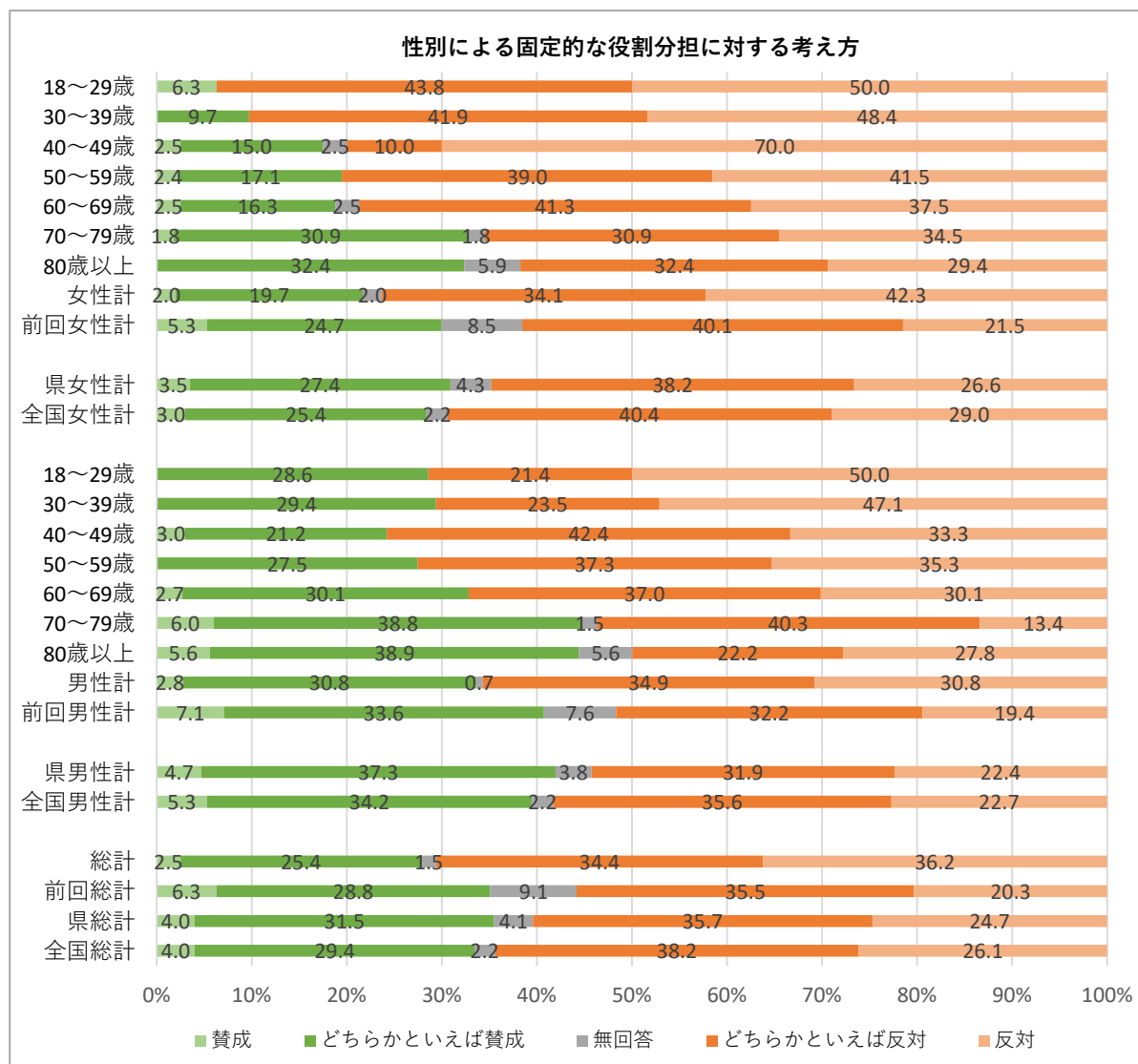
- 『否定』と回答した割合は、女性は76.4%、男性は65.7%。男女ともすべての年代で『否定』と回答した割合が『肯定』を上回っている。
- 女性は年代が高いほど、男性は40代以上で年代が高いほど『肯定』と回答した割合が高く、70代以上の男性で4割超。
- 『否定』と回答した割合は、女性は30代以下で9割を超え、40・50代は8割。男性は40代が75.8%で最も高い。うち「反対」は40代女性が7割、30代以下の男女が約5割。

ウ 前回との比較

男女とも『否定』と回答した割合は上昇し、『肯定』は低下。女性の「反対」の上昇幅は20.8ポイントと大きい。

エ 奄美大島町村・県・全国との比較

- 奄美大島4町村と比較すると、同様の傾向(グラフ省略)
- 県及び全国と比較すると、男女とも『否定』と回答した割合が高く、『肯定』が低い。



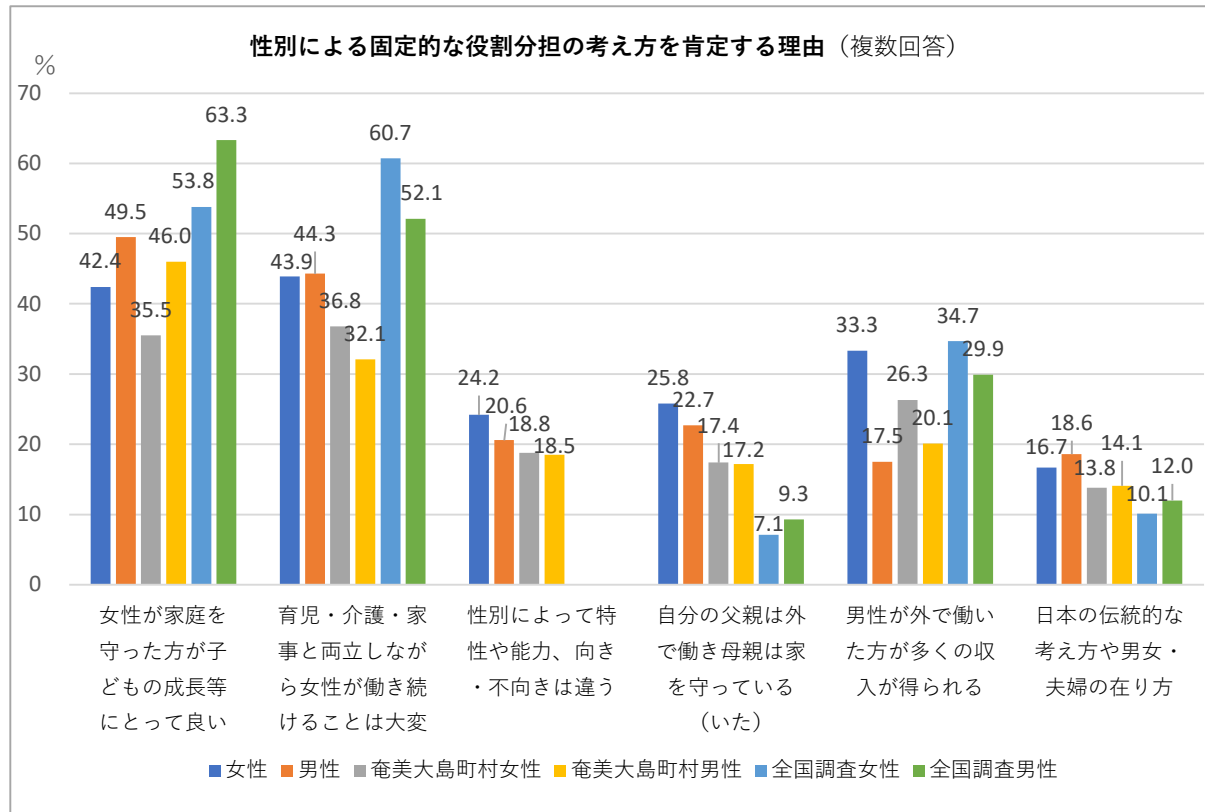
(2) 性別による固定的な役割分担を肯定する理由

ア 性別

性別を理由に役割を固定的にわけける考え方について、「賛成」と「どちらかといえば賛成」と回答した人にその理由を聞いたところ、男女とも『子どもの成長などにとって良い』と『女性が働き続けることが大変』と回答した割合が高い。

イ 奄美大島4町村・全国との比較

- ・ 奄美大島4町村と比較すると、女性では『親がそう(だった)』、男性では『女性が働き続けることは大変』と回答した割合が高い。
- ・ 全国と比較すると、女性では『女性が働き続けることは大変』、男性では『子どもの成長などにとって良い』と『収入が多く得られる』と回答した割合が低い一方、男女とも『親がそう(だった)』が高い。



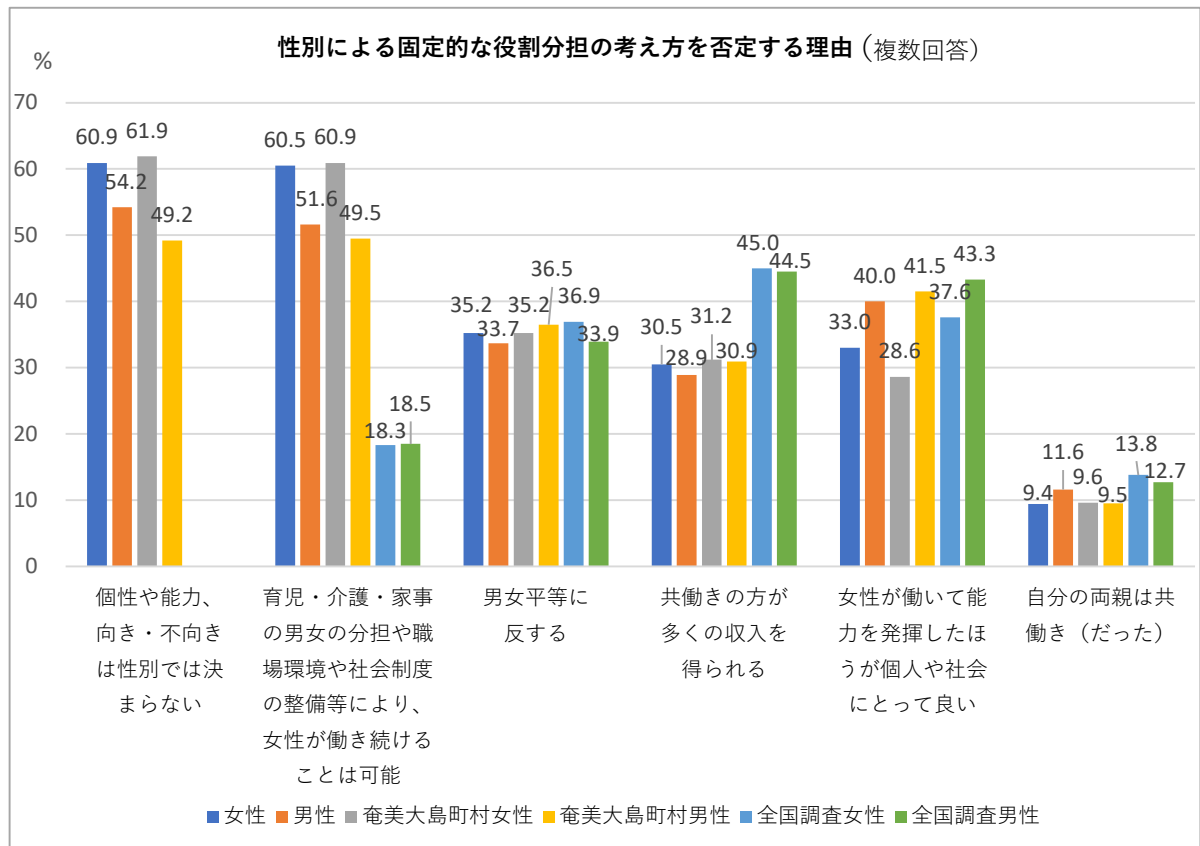
(3) 性別による固定的な役割分担を否定する理由

ア 性別

性別によって固定的に役割をわける考え方について、「反対」と「どちらかといえば反対」と回答した人にその理由を聞いたところ、男女とも、『個性や能力は性別では決まらない』と回答した割合が最も高く(女性 60.9%、男性 54.2%)、次いで『男女の分担や職場環境・制度の整備等で女性が働き続けることは可能』(女性 60.5%、男性 51.6%)。

イ 奄美大島町村・全国との比較

- ・ 奄美大島4町村と比較すると、ほぼ同様の傾向。
- ・ 全国と比較すると、『男女の分担や職場環境・制度の整備等で女性が働き続けることは可能』と回答した割合が高い一方、『共働きの方が収入が多い』と『女性が能力を発揮したほうが個人にも社会にも良い』は低い。



「その他意見」の主なもの

- ・ 昔と違い給料が少ない。(20代男性)
- ・ 共働きでも収入が低い。(30代女性)
- ・ 性別に関係なく、夫婦の自由(50・60代女性、30・40代男性)
- ・ 性別に関係なく社会に出るべき(40代女性)
- ・ 専業主夫の選択もあると思う。(40代男性)
- ・ 女性もやりたい仕事があれば勤め上げることができることが公平(50代男性)
- ・ 二人で働かないと食べられない人もいる。(60代女性) など

(4) 女性が職業を持つことに対する考え

ア 総計

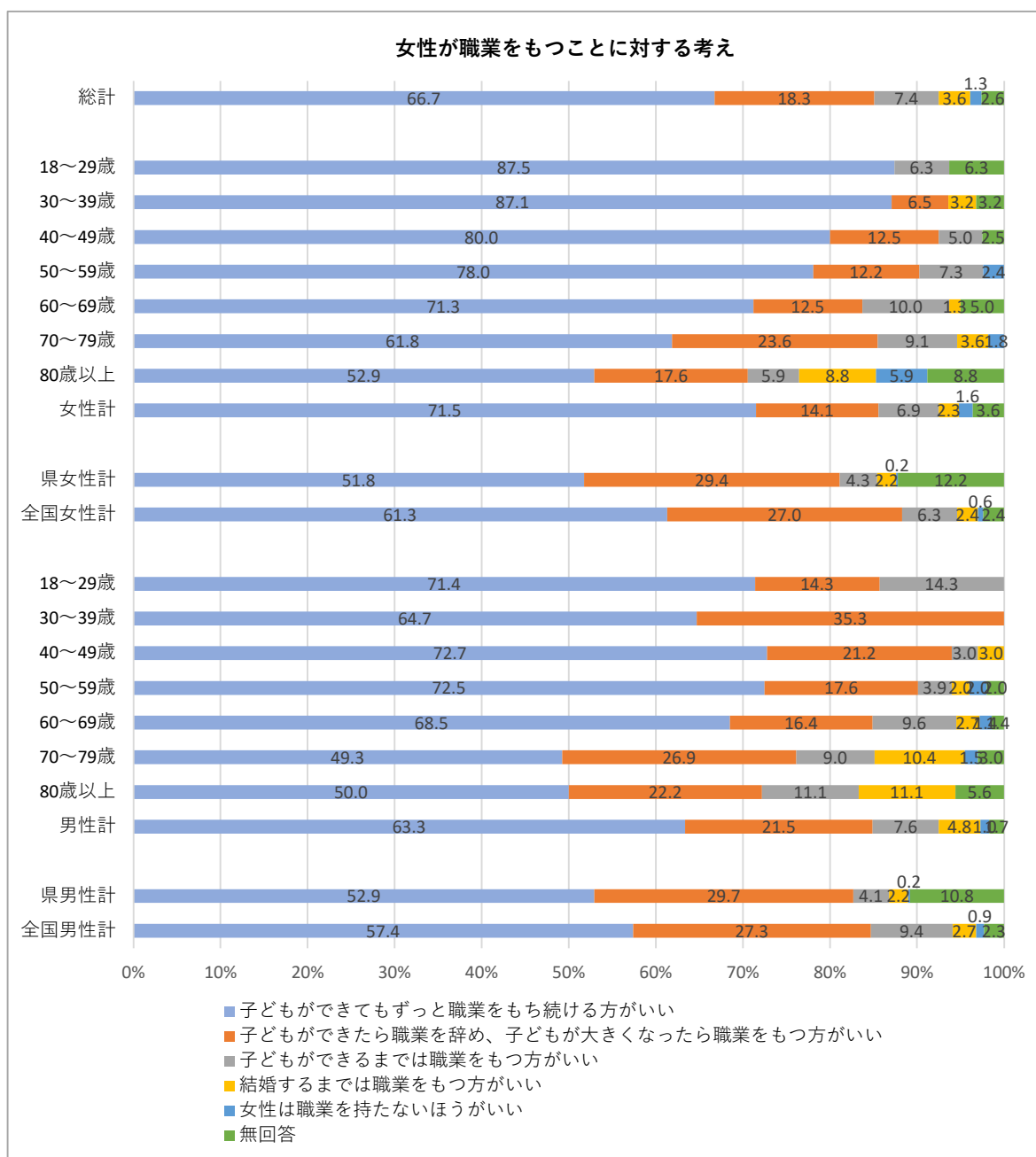
女性が職業を持つことについて訊いたところ、『子どもができて、ずっと職業をもち続ける方がよい』と回答した割合が66.7%、『子どもができたなら職業をやめ、子どもが大きくなったら職業をもつ方がよい』が18.3%。

イ 性別・性・年代別

『子どもができて、ずっと職業をもち続ける方がよい』と回答した割合は、女性71.5%、男性63.3%で、全ての年代で男性より女性が高く、若い世代ほど高い傾向にあり、40代以下の女性は8割を超える。ただし、『子どもができたなら職業をやめ、子どもが大きくなったら職業をもつ方がよい』と回答した割合が最も高いのは、30代の男性で35.3%。

ウ 奄美大島4町村・県・全国との比較

- ・ 奄美大島4町村と比較すると、大きな差はみられない。(グラフ省略)
- ・ 県、全国と比較すると、男女とも『子どもができて、ずっと職業をもち続ける方がよい』と回答した割合が高く、『子どもができたなら職業をやめ、子どもが大きくなったら職業をもつ方がよい』と回答した割合が低い。



3 家庭生活・地域活動について

(1) 家事、育児、介護・看護、地域活動における夫婦の役割分担

ア 性別・性・年代別

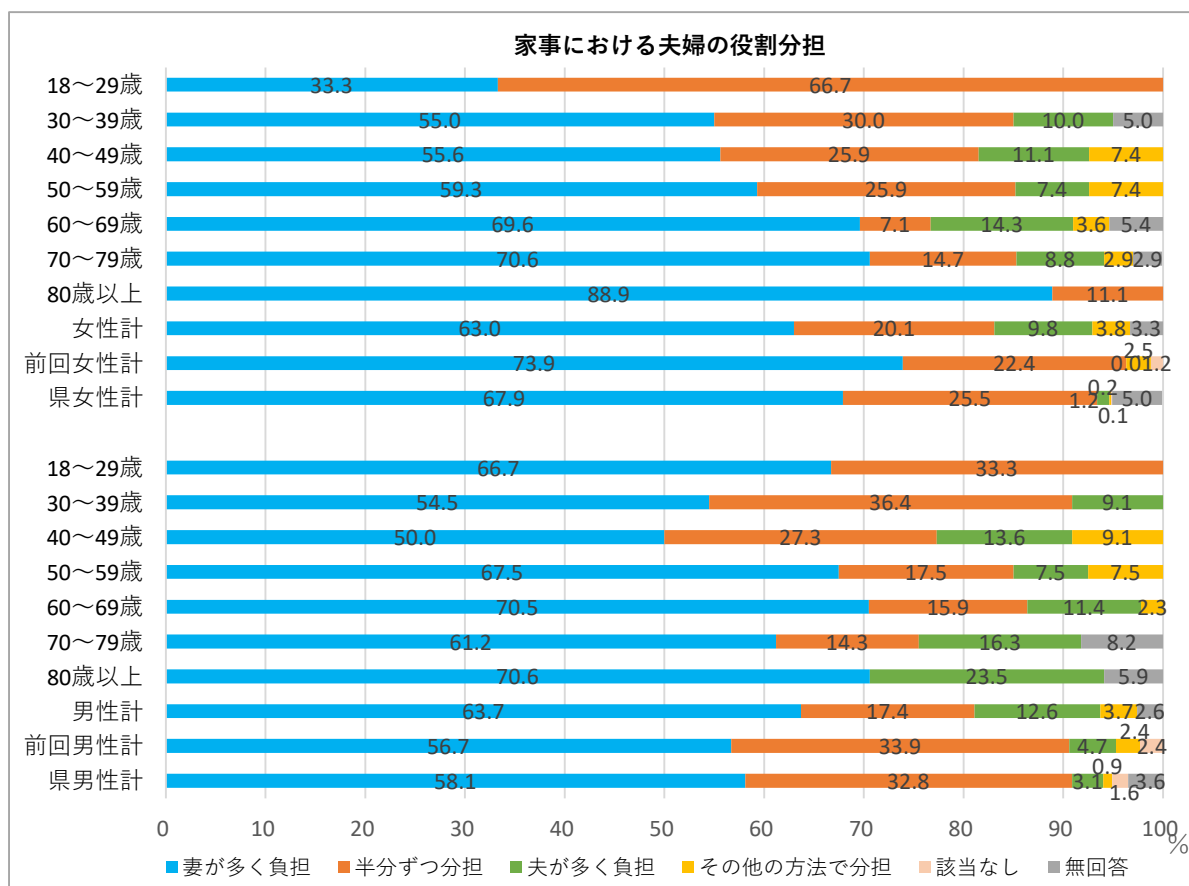
- ・ 配偶者（事実婚のパートナーを含む。）がいる人に家庭生活や地域活動の参加についての夫婦の分担を聞いたところ、「家事」「育児」「介護・看護」の分担状況の認識は男女ほぼ同じで、「妻が多く分担」と回答した割合が「家事」は約6割、「育児」「介護」は「該当なし」と回答した人を除いた実質で7割前後。一方、「地域活動」については「妻が多く分担」と回答した割合は女性40.8%、男性28.4%、「夫が多く分担」は女性19.6%、男性31.6%で、認識のギャップがある。
- ・ 「家事」「育児」「介護・看護」について、男女とも60～70代が「妻が多く分担」と回答した割合が高く、「地域活動」については、40代以上の女性が「妻が多く分担」、50～70代の男性が「夫が多く分担」と回答した割合が高い。

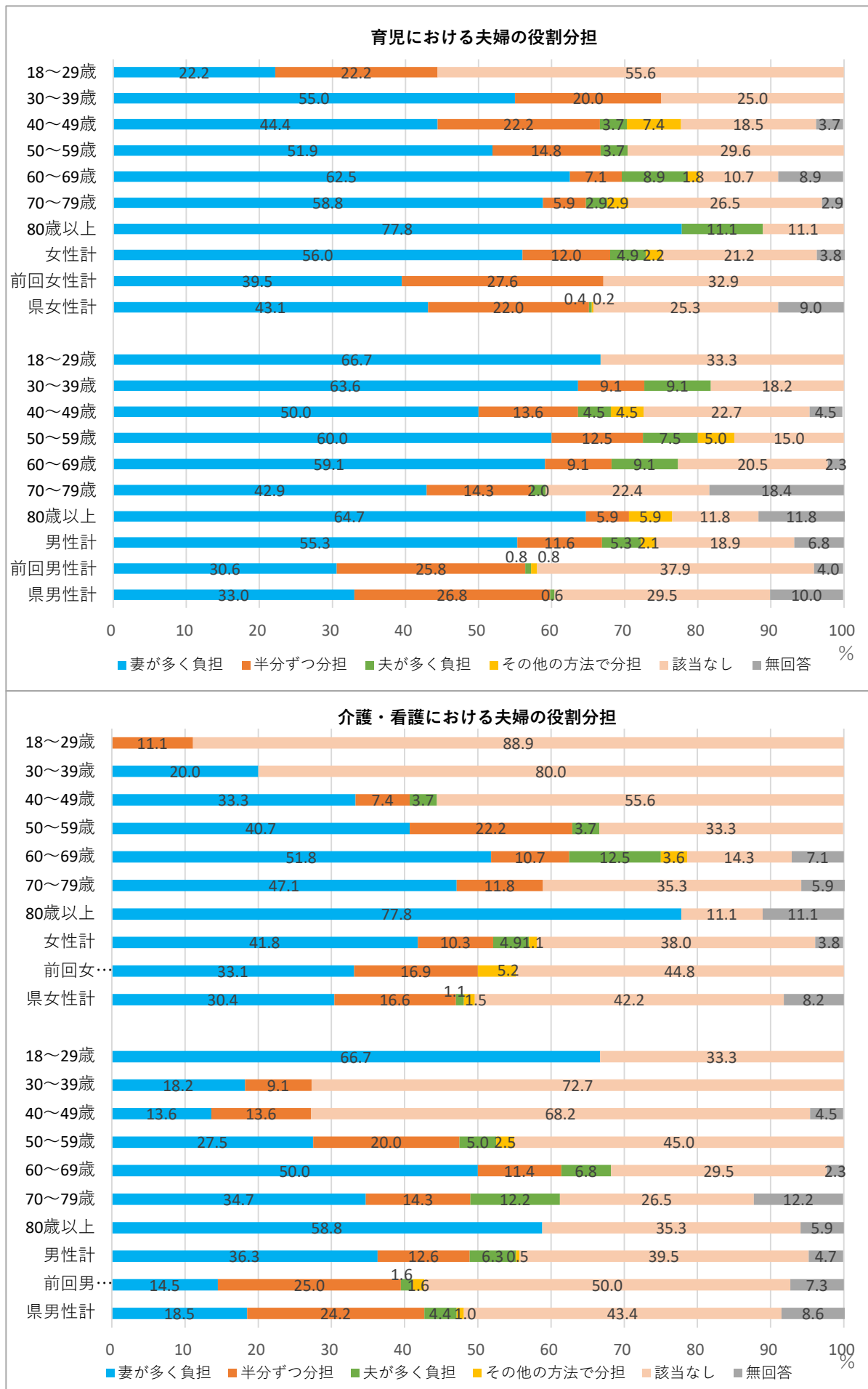
イ 前回との比較

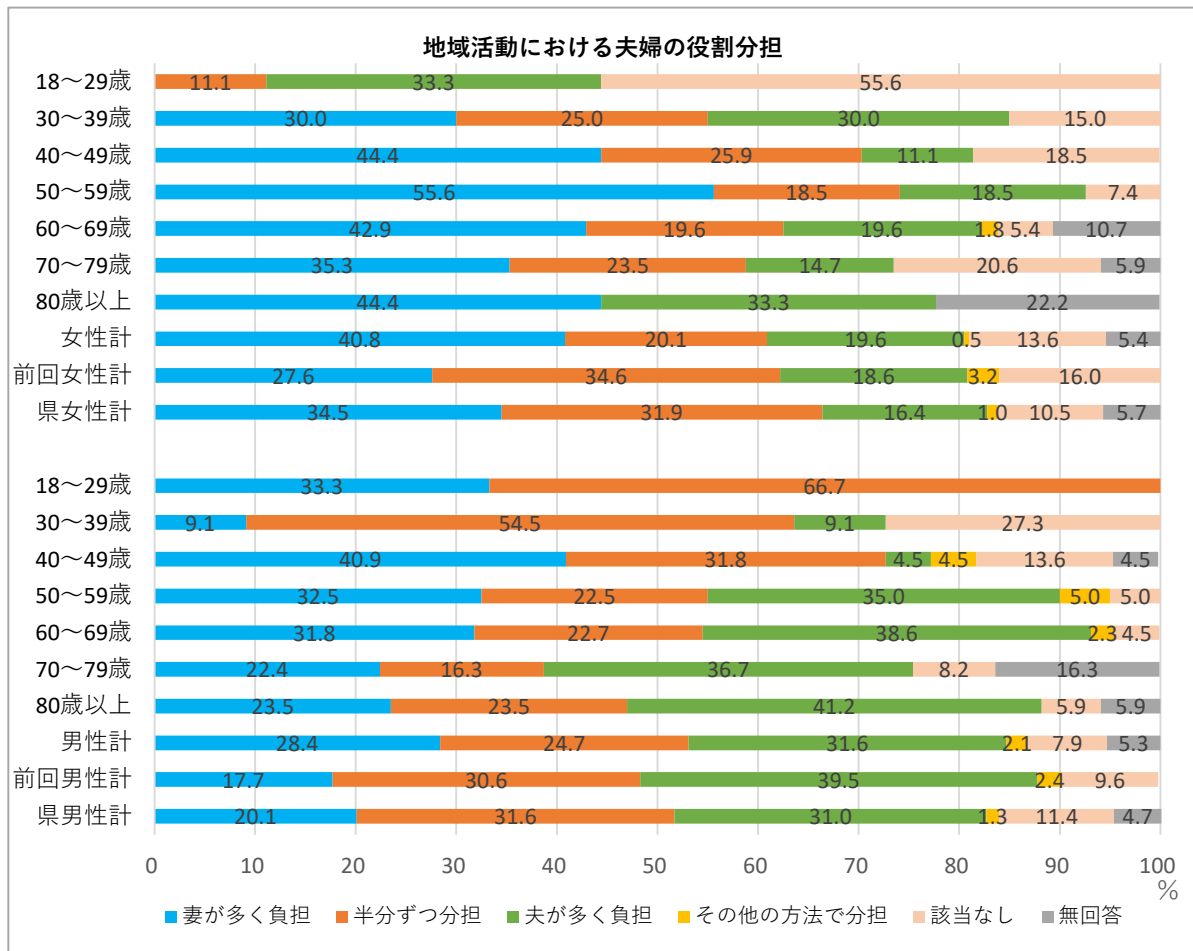
「育児」「介護・看護」「地域活動」については、男女とも「妻が多く分担」と回答した割合が上昇。「家事」については、「妻が多く分担」が女性は低下し、男性が上昇したことで、男女の差が縮小。

ウ 奄美大島町村・県との比較

- ・ 奄美大島4町村と比較すると、ほぼ同様の傾向。
- ・ 県と比較すると、「妻が多く分担」と回答した割合が高く、「半分ずつ分担」と回答した割合が低い。







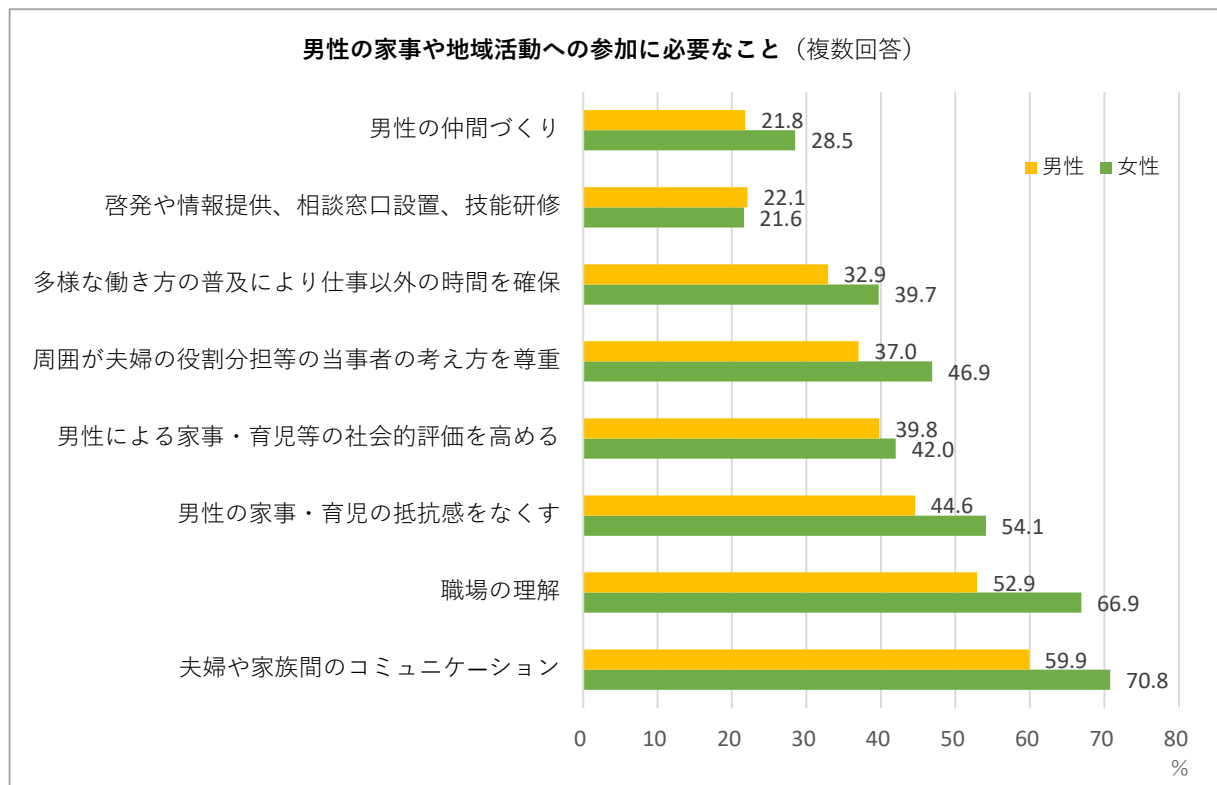
(2) 男性が家庭や地域活動に積極的に参加するために必要なこと

ア 性別

男性が家事や育児、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要なことについて聞いたところ、男女とも『夫婦や家族間のコミュニケーション』(70.81%、59.9%)と回答した割合が最も高く、次いで『職場の理解』(66.9%、52.9%)、『男性の家事・育児の抵抗感をなくす』(54.1%、44.6%)。

イ 奄美大島町村・県・全国との比較（グラフ省略）

- ・ 奄美大島4町村と同様の傾向にある。
- ・ 県と比較すると、『啓発や情報提供、相談、研修』以外の項目で回答した割合は高く、特に『周囲が当事者の考え方を尊重』(26.7ポイント)、『社会的評価を高める』(23.3ポイント)が高い。
- ・ 国と比較すると、ほぼ同様の傾向だが、『男性の家事・育児の抵抗感をなくす』と回答した割合が15.5ポイント低い。



「その他意見」(9件)のうち主なもの

- ・ 家事・育児の「抵抗感」ではなく「意識」をかえる、なくす。(40代女性)
- ・ 家事は生きるために必要なこと。育児も当然保護者の責任です。(40代女性)
- ・ 男性もその時間を作れる環境が必要。(40代男性)
- ・ 女性の給料を倍以上にする。(40代男性)
- ・ 戦後の復興は日本人がよく働いたからだと思う。労働時間の短縮は日本の力を弱めると思うので、海外に合わせる必要はない。(60代男性)
- ・ 学校・家庭で男女平等を幼児から教える。(70代女性)
- ・ 本人の考え次第(70代男性)
- ・ 妊婦健診の時に父親学級で家事・育児に対する意識付けをする。(80歳以上女性)

4 子育てに関する考え方について

ア 総計

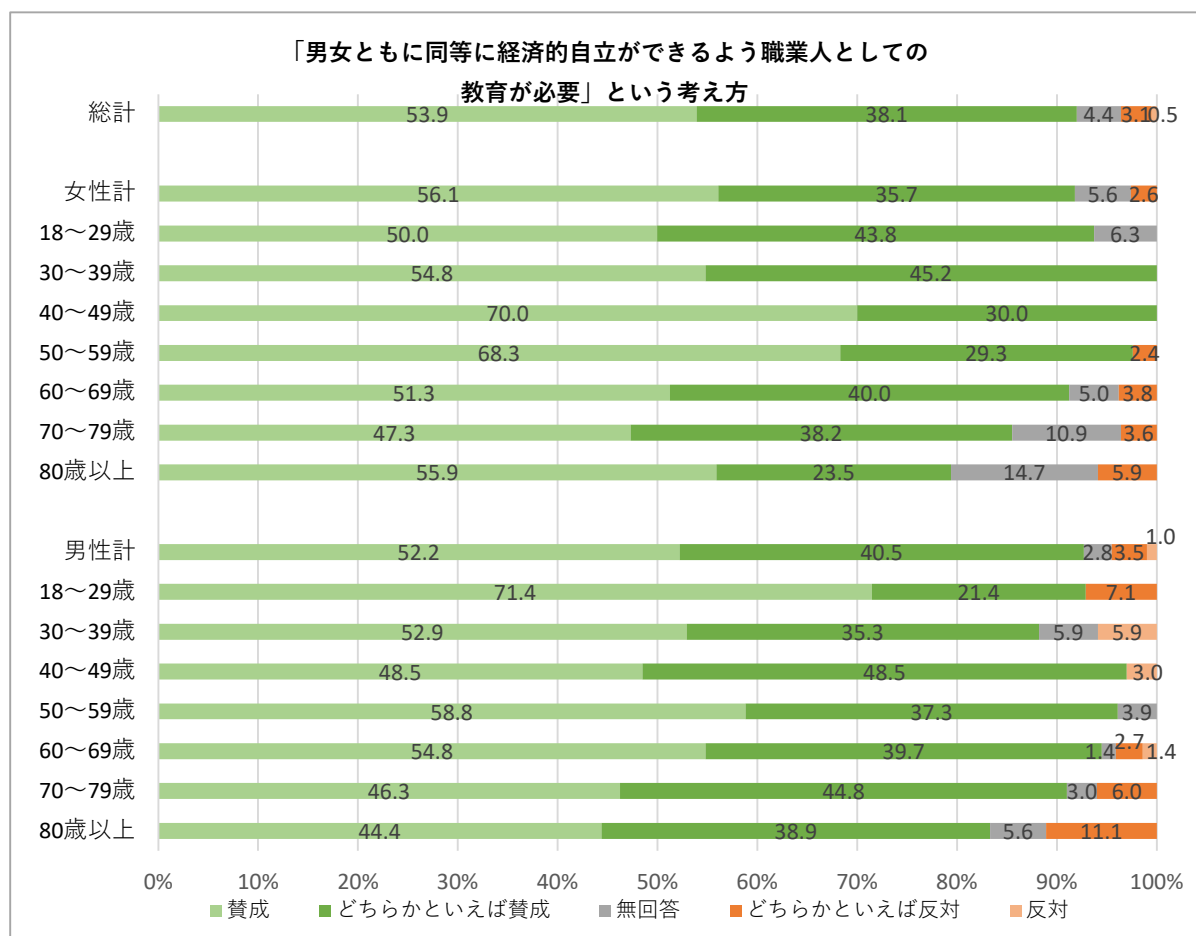
- 子育ての考え方について訊いたところ、『男女同等に経済的自立ができるための教育』（以下『経済』という。）『男女ともに家事など生活に必要な技術の習得』（以下『生活』という。）については、「賛成」又は「どちらかといえば賛成」（以下『賛成計』という。）と回答した割合がともに9割超。『生活』の方が『経済』より「賛成」と回答した割合が高い。
- 『男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てる』考え方（以下『性別で分けた育て方』という。）については、『賛成計』は52.6%、「反対」又は「どちらかといえば反対」（以下『反対計』という。）と回答した割合は43.7%。

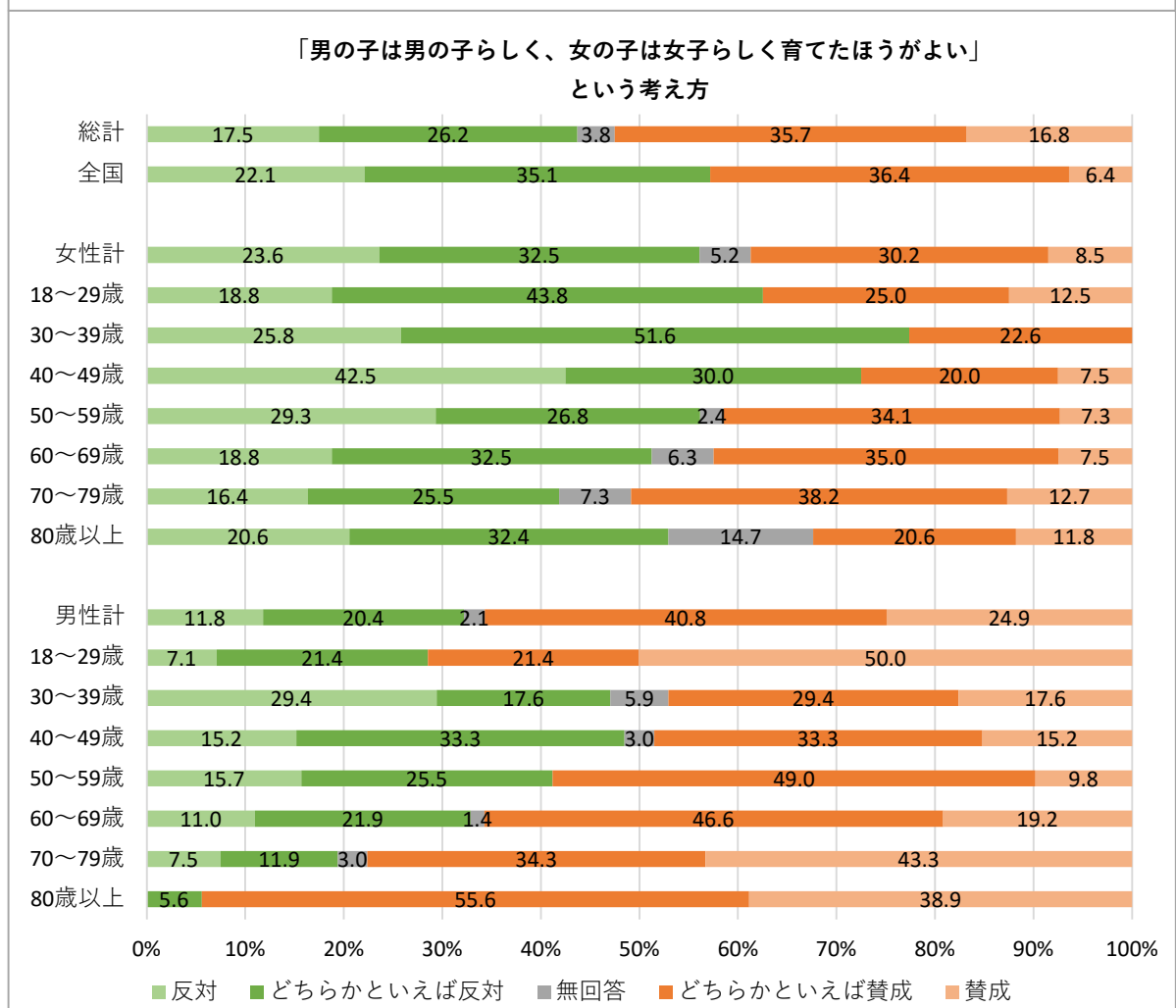
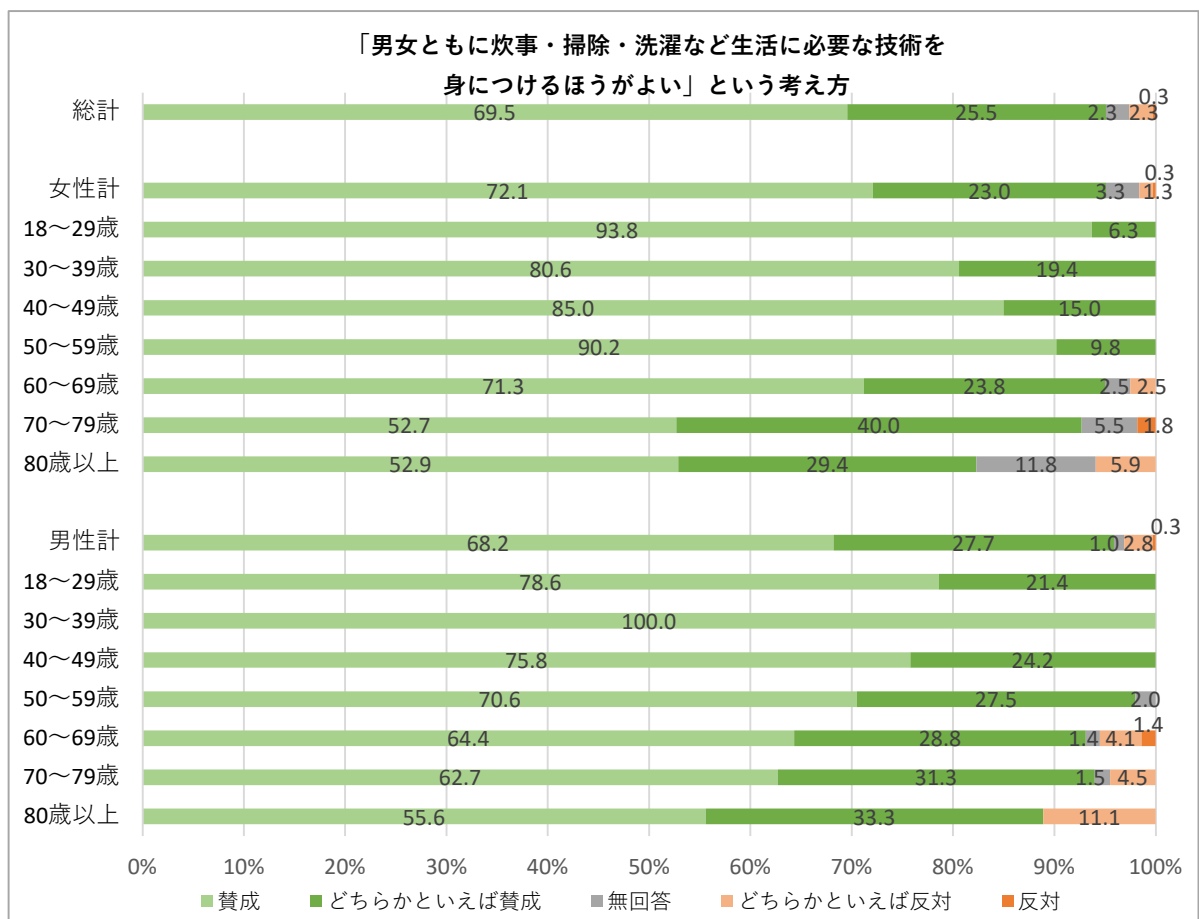
イ 奄美大島4町村・全国との比較

- 奄美大島4町村と比較すると、ほぼ同じ傾向。（グラフ省略）
- 『性別で分けた育て方』について全国と比較すると、『賛成計』の割合が高く、『反対計』が低い。

ウ 性別・性・年代別

- 女性は、男性に比べて『経済』と『生活』について『賛成計』の割合が高い。
- 『性別で分けた育て方』について、女性は『反対計』の割合(56.1%)が『賛成計』の割合(38.7%)より高く、男性は『賛成計』の割合(65.7%)が『反対計』の割合(32.2%)より高い。
- 『経済』について「賛成」と回答した割合が最も高いのは、29歳以下の男性と40代の女性で約7割。
- 『生活』については、50代以下で「賛成」と回答した割合が女性は8割、男性は7割を超えている。
- 『性別で分けた育て方』について、「賛成」と回答した割合は30代以上で年代が高いほど高い傾向にあり、男性はすべての年代で『賛成計』の割合が『反対計』以上で、80歳以上は94.5%、70代は77.6%。一方、『反対計』の割合は、女性の30・40代で7割を超え、男女とも若い年代ほど反対の傾向が強い。





5 職業生活について

職場における性別による格差の状況

ア 総計

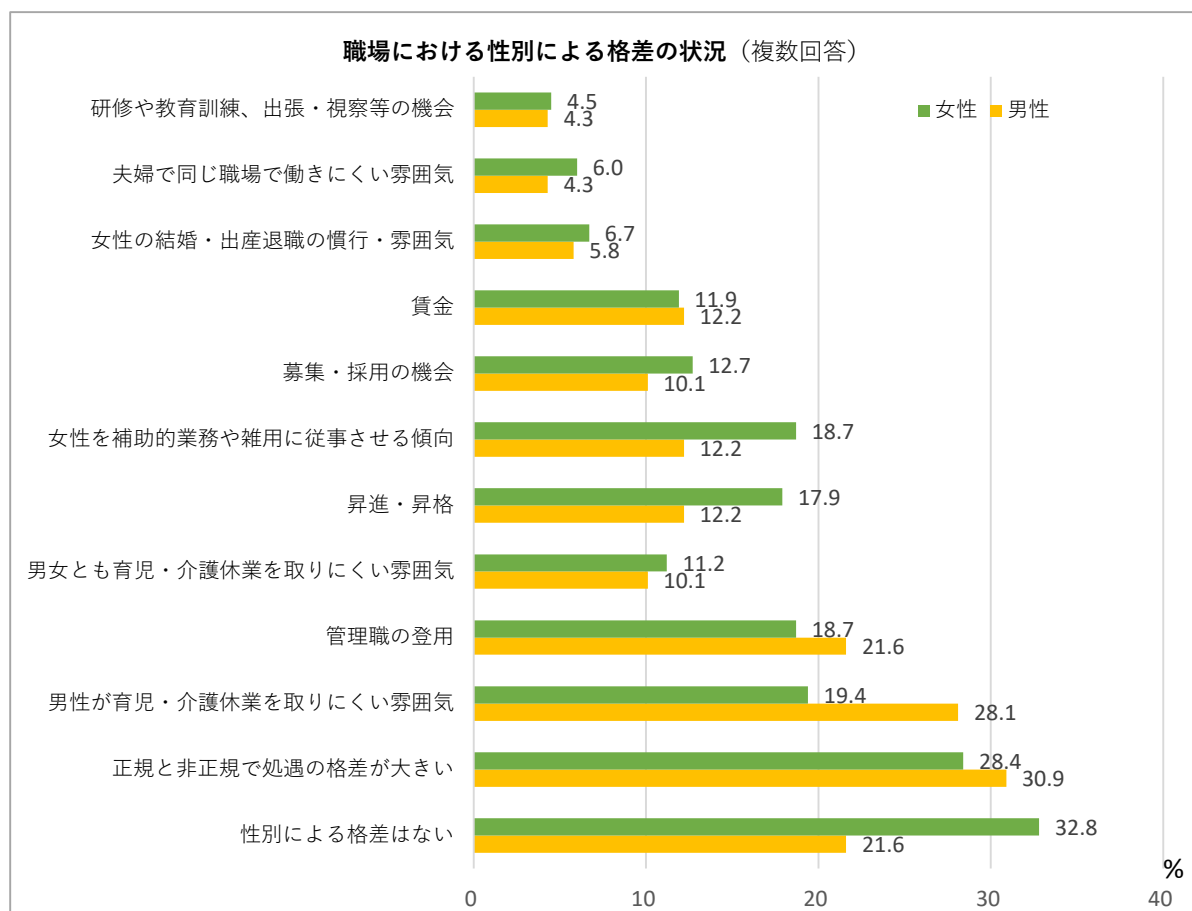
雇用されて仕事をしている人に職場における性別による格差について聞いたところ、回答した割合が高かったのは『正規と非正規による処遇の格差』(29.7%)、『男女格差なし』(27.1%)、『男性が育児・介護休業を取得しづらい』(23.8%)。

イ 性別、性・年代別

- ・ 項目別の回答割合は男女ほぼ同様の傾向だが、『女性に補助・雑用業務』と『昇進・昇格』で女性が男性を、『男性が育児・介護休業を取得しづらい』で男性が女性を上回っている。
- ・ 40代女性は、『正規と非正規による処遇の格差』(41.4%)、『昇進・昇格の男女格差』(37.9%)、『募集・採用の男女格差』(24.1%)など回答した割合が他の性・年代に比べて高い項目が多く、格差の認識が高い傾向がみられる。
- ・ 『正規と非正規による処遇の格差』と回答した割合は、50・70代男性も40.0%と高い。
- ・ 『男性が育児・介護休業を取得しづらい』と回答した割合が高いのは、40代男性(42.3%)、次いで50・60代の男性と40代の女性(約3割)。
- ・ 『管理職登用の男女格差』と回答した割合が最も高いのは、30代と40代の女性(35.0%、34.5%)。
- ・ 『男女格差なし』と回答した割合が最も高いのは、29歳以下の男女と70代以上の女性で5割以上。

ウ 奄美大島町村・県との比較 (グラフ省略)

- ・ 奄美大島4町村とはほぼ同様の傾向だが、男性が回答した割合は『管理職登用』で高く、『男女格差なし』で低い。
- ・ 県調査と比較すると、『男性が育児・介護休業を取得しづらい』、『管理職登用』をはじめほとんどの項目で回答した割合が高く、『男女格差なし』と回答した割合は低い。



職場における性別による格差の状況（複数回答）

単位：％

	正規と非正規で処遇の格差が大きい	男性が育児・介護休業を取りにくい雰囲気	管理職の登用	男女とも育児・介護休業を取りにくい雰囲気	昇進・昇格	女性を補助的業務や雑用に従事させる傾向	募集・採用の機会	賃金	女性の結婚・出産退職の慣行・雰囲気	夫婦で同じ職場で働きにくい雰囲気	研修や教育訓練、出張・視察等の機会	性別による格差はない
総計	29.7	23.8	20.1	10.6	15.0	15.4	11.4	12.1	6.2	5.1	4.4	27.1
女性計	28.4	19.4	18.7	11.2	17.9	18.7	12.7	11.9	6.7	6.0	4.5	32.8
18～29歳	15.4	15.4	7.7	—	7.7	15.4	—	—	—	—	—	53.8
30～39歳	15.0	15.0	35.0	15.0	15.0	25.0	15.0	10.0	10.0	—	5.0	20.0
40～49歳	41.4	27.6	34.5	13.8	37.9	24.1	24.1	17.2	6.9	17.2	10.3	34.5
50～59歳	33.3	14.8	11.1	18.5	14.8	18.5	11.1	14.8	3.7	—	3.7	33.3
60～69歳	30.6	22.2	8.3	5.6	11.1	13.9	5.6	8.3	5.6	5.6	—	27.8
70～79歳	—	—	—	—	—	16.7	16.7	16.7	16.7	—	—	50.0
80歳以上	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	50.0
男性計	30.9	28.1	21.6	10.1	12.2	12.2	10.1	12.2	5.8	4.3	4.3	21.6
18～29歳	10.0	10.0	20.0	10.0	20.0	10.0	20.0	20.0	10.0	10.0	10.0	50.0
30～39歳	20.0	20.0	26.7	13.3	6.7	26.7	—	13.3	20.0	6.7	—	26.7
40～49歳	34.6	42.3	26.9	23.1	23.1	19.2	11.5	7.7	7.7	7.7	3.8	11.5
50～59歳	40.0	30.0	22.5	7.5	5.0	5.0	7.5	5.0	—	—	2.5	20.0
60～69歳	27.0	29.7	13.5	5.4	13.5	10.8	13.5	18.9	2.7	5.4	8.1	21.6
70～79歳	40.0	10.0	20.0	—	10.0	10.0	10.0	20.0	10.0	—	—	20.0
80歳以上	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

6 ジェンダーに起因する暴力について

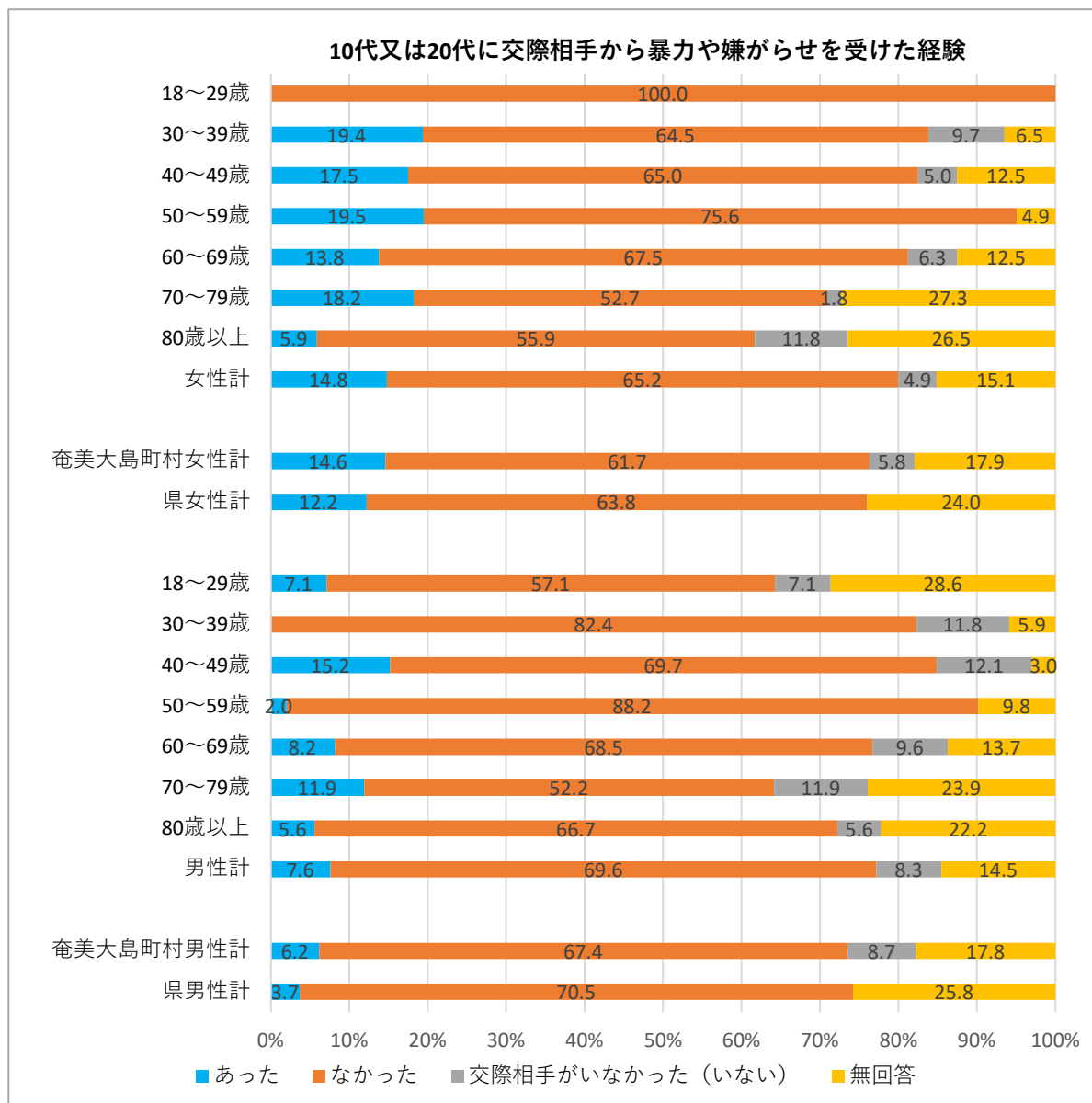
(1) 交際相手や元交際相手から暴力を受けた経験

ア 性別、性・年代別

- ・ 10代又は20代に交際相手や元交際相手から暴力や嫌がらせを受けた経験について訊いたところ、『身体的暴力』、『精神的暴力』、『性的暴力』のいずれかの暴力を受けた経験は、女性14.8%、男性7.6%。
- ・ いずれかの暴力について「あった」と回答した割合が高いのは、30～50代と70代の女性で約2割。
- ・ 男女とも年代が高くなるほど「無回答」の割合が高くなる傾向にあり、70代以上の男女は2～3割。

イ 奄美大島町村・県との比較（県のグラフ省略）

- ・ 奄美大島4町村及び県と比較すると、傾向はほぼ同様。



(2) 配偶者や元配偶者からの暴力を受けた経験

ア 性別

- ・ 結婚経験者（事実婚を含み、未婚者を除く。）に配偶者や元配偶者から暴力を受けた経験について訊いたところ、『身体的暴力』、『精神的暴力』、『性的暴力』の順に「何度もあった」及び「1、2度あった」と回答した割合が高い。それらのいずれかの暴力を受けた経験が「何度もあった」と回答した割合は、女性は9.8%、男性は2.3%。
- ・ 「無回答」の割合が高く、特に女性で『精神的暴力』と『性的暴力』の「無回答」の割合が高い(43.9%、48.1%)。暴力を受けた経験のある割合は、調査結果より高い可能性があると思われる。(前回、奄美大島4町村・県・全国との比較は困難)

イ 性・年代別

(ア) 身体的暴力

- ・ 「無回答」の割合が最も高いのは、29歳以下の女性(77.8%)。40代と80歳以上の女性と50代男性も4割超。
- ・ 「何度もあった」と回答した割合が最も高いのは70代の女性(13.7%)、次いで50代の女性(8.1%)。「1、2度あった」を合わせると、それぞれ27.4%と18.9%。
- ・ 男性は「何度もあった」と回答した人はほとんどいないが、「1、2度あった」と合わせると70代以上が2割超。

(イ) 精神的暴力

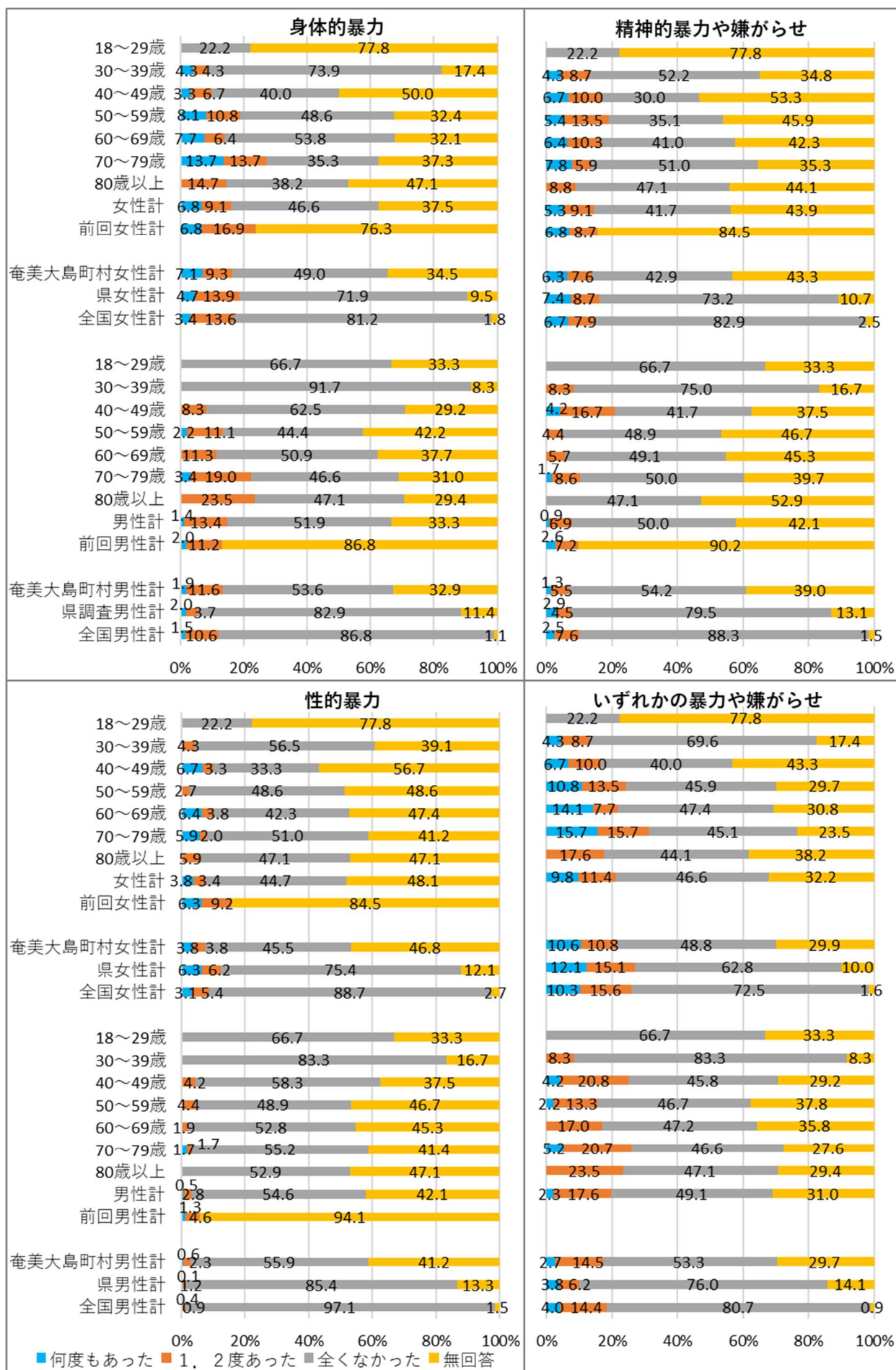
- ・ 「無回答」の割合が最も高いのは、29歳以下の女性(77.8%)で、40～60代と80歳以上の女性、50・60代と80歳以上の男性で4割を超える。
- ・ 「何度もあった」と回答した割合が最も高いのは70代女性(7.8%)、次いで40代と60代の女性(6.7%、6.4%)。「1、2度あった」を合わせると、それぞれ13.7%、16.7%、16.7%。
- ・ 男性では、「何度もあった」と回答した人はほとんどいない。「1、2度あった」を合わせると40代で20.9%。

(ウ) 性的暴力

- ・ 「無回答」の割合が最も高いのは、29歳以下の女性(77.8%)で、40代以上の女性と50以上の男性も4割を超える。
- ・ 「何度もあった」と回答した割合が最も高いのは40代の女性(6.7%)、次いで60代の女性(6.4%)。「1、2度あった」と回答した割合を合わせると、それぞれ10.0%、10.2%。
- ・ 男性では、「何度もあった」「1、2度あった」とも回答した人はほとんどいない。

(エ) いずれかの暴力

- ・ いずれかの暴力を受けた経験が「何度もあった」と回答した割合が最も高いのは70代の女性(15.7%)、次いで60代(14.1%)、50代の女性(10.8%)。「1、2度あった」を合わせると、それぞれ31.4%、21.8%、24.3%。
- ・ 男性では、「何度もあった」と回答した人はほとんどいないが、「1、2度あった」を合わせると回答した割合が高いのは70代(25.9%)、40代(25.0%)、80歳以上(23.5%)。



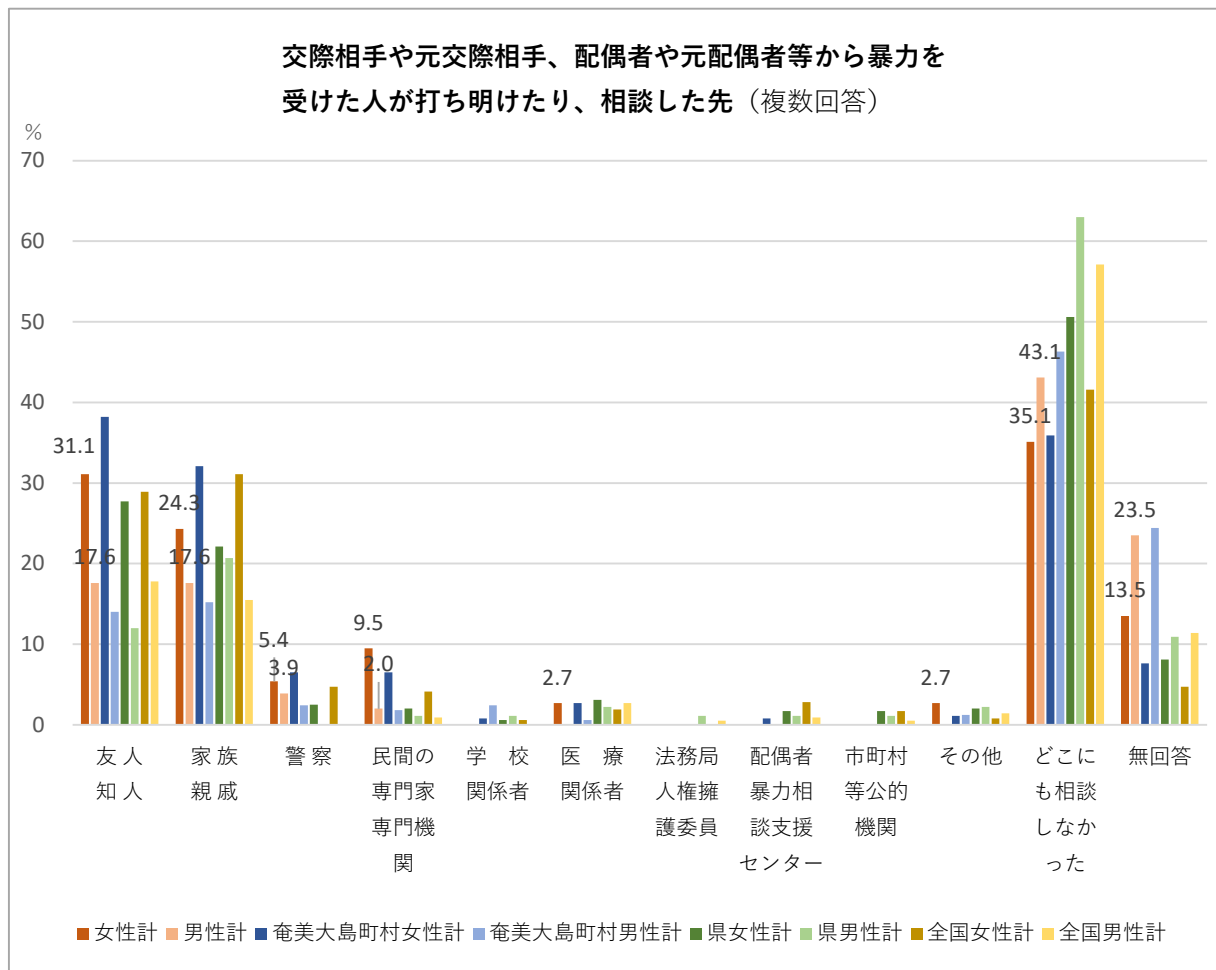
(3) 暴力を受けたときの相談先

ア 性別

恋人や元恋人、配偶者や元配偶者から暴力や嫌がらせを受けた経験があると回答した人に相談先について聞いたところ、男女とも「どこ(だれ)にも相談しなかった(できなかった)」と回答した割合が最も高く(女性35.1%、男性43.1%)、次いで「友人、知人」、「家族や親戚」(女性は31.1%と24.3%、男性はともに17.6%)。町の相談窓口相談した人はいなかった。

イ 奄美大島4町村、県、全国との比較

- ・ 奄美大島4町村と比較すると、女性の「家族や親戚」と「友人、知人」に相談したと回答した割合が低い。
- ・ 県及び全国と比較すると、男女とも「どこ(だれ)にも相談しなかった(できなかった)」と回答した割合は低い。



7 男性の生きづらさや不便さについて

(1) 男性としての生きづらさや不便さの有無

ア 総計・年代別

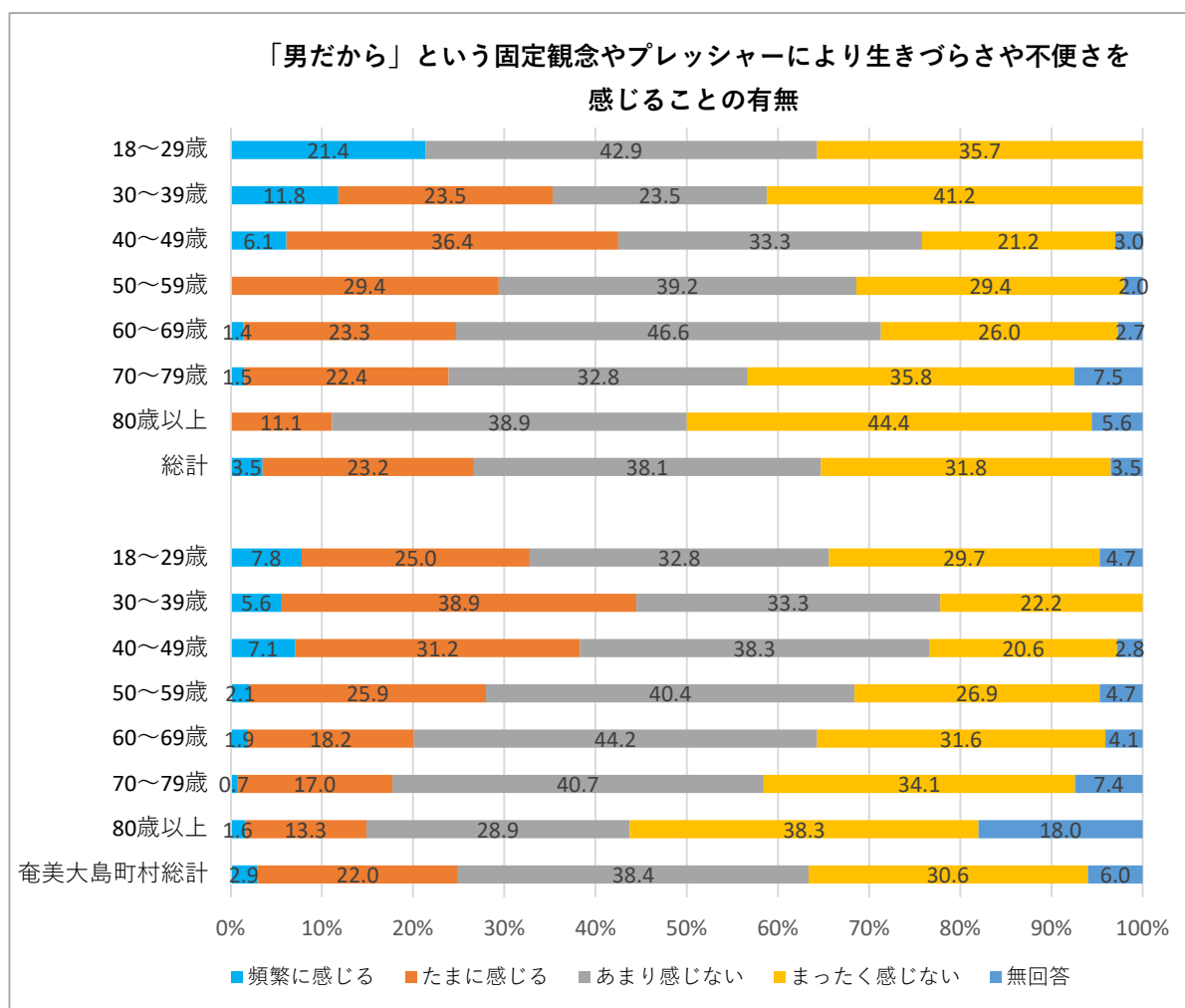
- ・ 男性に、職場や学校、家庭などの場で、「男だから」という固定観念やプレッシャーにより生きづらさや不便さを感じるかについて聞いたところ、「まったく感じない」と回答した割合は31.8%、「あまり感じない」は38.1%、「たまに感じる」は23.2%、「頻繁に感じる」は3.5%。
- ・ 若い年代ほど「頻繁に感じる」と回答した割合が高い傾向にあり、29歳以下では21.4%、30代は11.8%。「たまに感じる」を合わせると、30代と40代が高い(35.3%、42.5%)。
- ・ 「まったく感じない」と回答した割合が高いのは、80歳以上(44.4%)、30代(41.2%)。

イ 結婚の状況・職業別 (グラフ省略)

- ・ 「頻繁に感じる」と「たまに感じる」を合わせた『感じる』と回答した割合は、結婚の状況別では「未婚」、職業別では「非正規雇用者」が最も高い(47.5%、32.2%)。
- ・ 夫婦の就労状況別で「まったく感じない」と回答した割合が最も高いのは、「自分のみ仕事がある」人(50.0%)。
- ・ 性別による固定的な役割分担の考え方に反対の人の方が、『感じる』と回答した割合が高い(30.0%)。

ウ 奄美大島4町村との比較 (グラフ省略)

奄美大島4町村と比較すると、総計は同様の傾向にあるものの、年代別の『感じる』と回答した割合は、30代以下は低く、40～70代は高い。



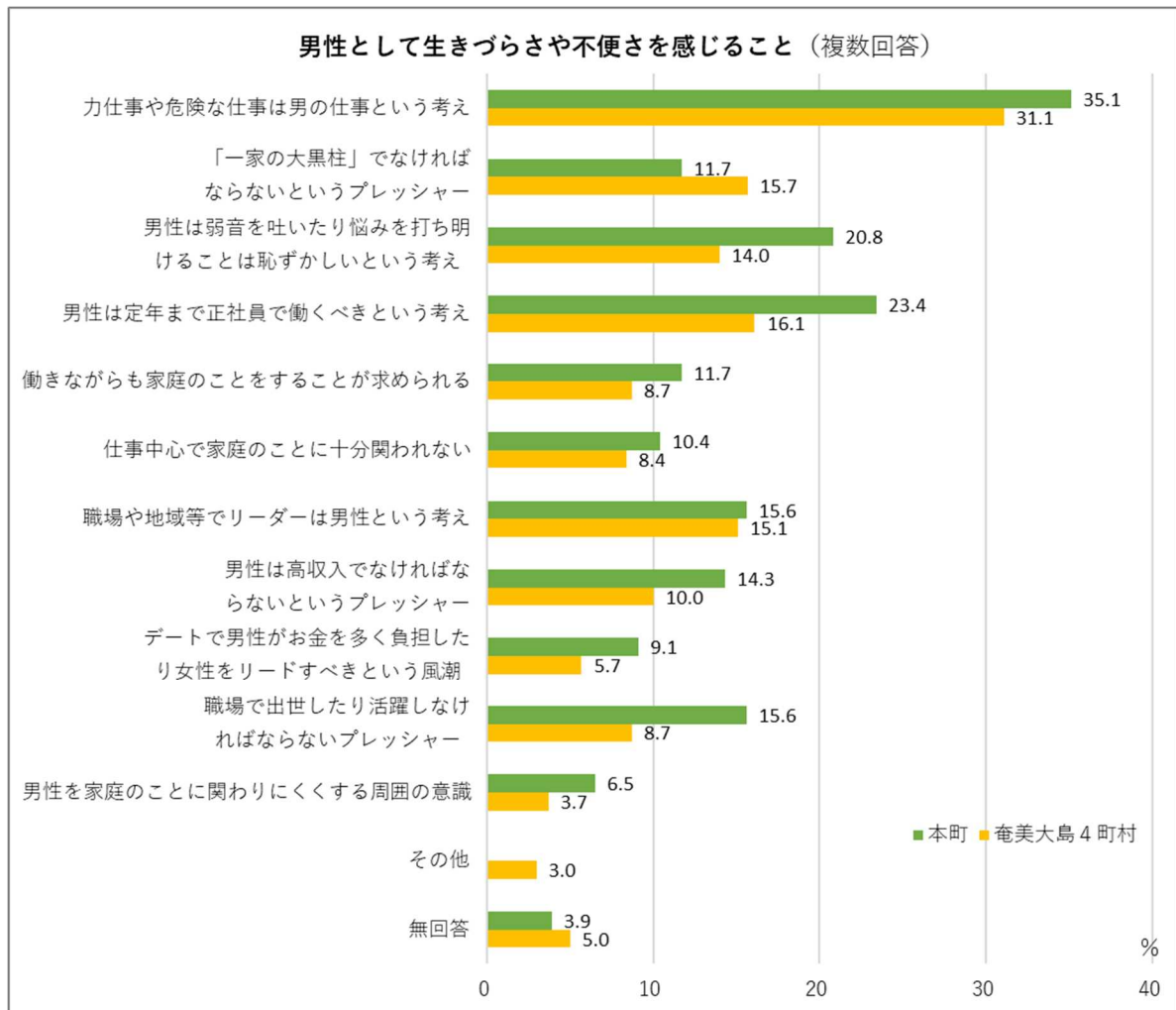
(2) 男性として生きづらさや不便さを感じること

ア 総計、結婚の状況・職業別

- ・ 職場や学校、家庭などの場で、「男だから」という固定観念やプレッシャーにより生きづらさや不便さを「頻繁に感じる」又は「たまに感じる」(『感じる』)と回答した男性に、そう感じることを3つまで聞いたところ、回答した割合が高いのは『力仕事や危険な仕事』(35.1%)、『定年まで正社員』(23.4%)、『弱音を吐いたり悩みを打ち明けられない』(20.8%)。
- ・ 「結婚している」人と「正規雇用者」は『定年まで正社員』(34.1%、36.7%)と回答した割合が最も高い。(グラフ省略)

イ 奄美大島町村との比較

奄美大島4町村と比較すると、ほとんどの項目で回答した割合が高く、特に『定年まで正社員』『職場で出世や活躍』『弱音を吐いたり悩みを打ち明けられない』が7ポイント前後上回っている。



ウ 男性として生きづらさや不便さを感じたエピソード

男性として生きづらさや不便さを感じたエピソードを聞いたところ、以下の5件が寄せられた。

- ・ 男性は率先して物事に取り組むべきという雰囲気(20代男性)
- ・ まだまだ島の人の考え方は古く、保守的で、何かチャレンジしようとしても「無理だ」「できない」がまず出てくる。島愛が強いので固執しやすい。(40代男性)
- ・ 特別何かあるわけではないが、周囲の無言の圧力を感じる。(50代男性)
- ・ 年齢が年齢だけに、今の世の中についていけない。(70代男性)
- ・ 病気になった時(70代男性)

8 生活上の困難について

(1) 相談窓口に必要な配慮

ア 性別

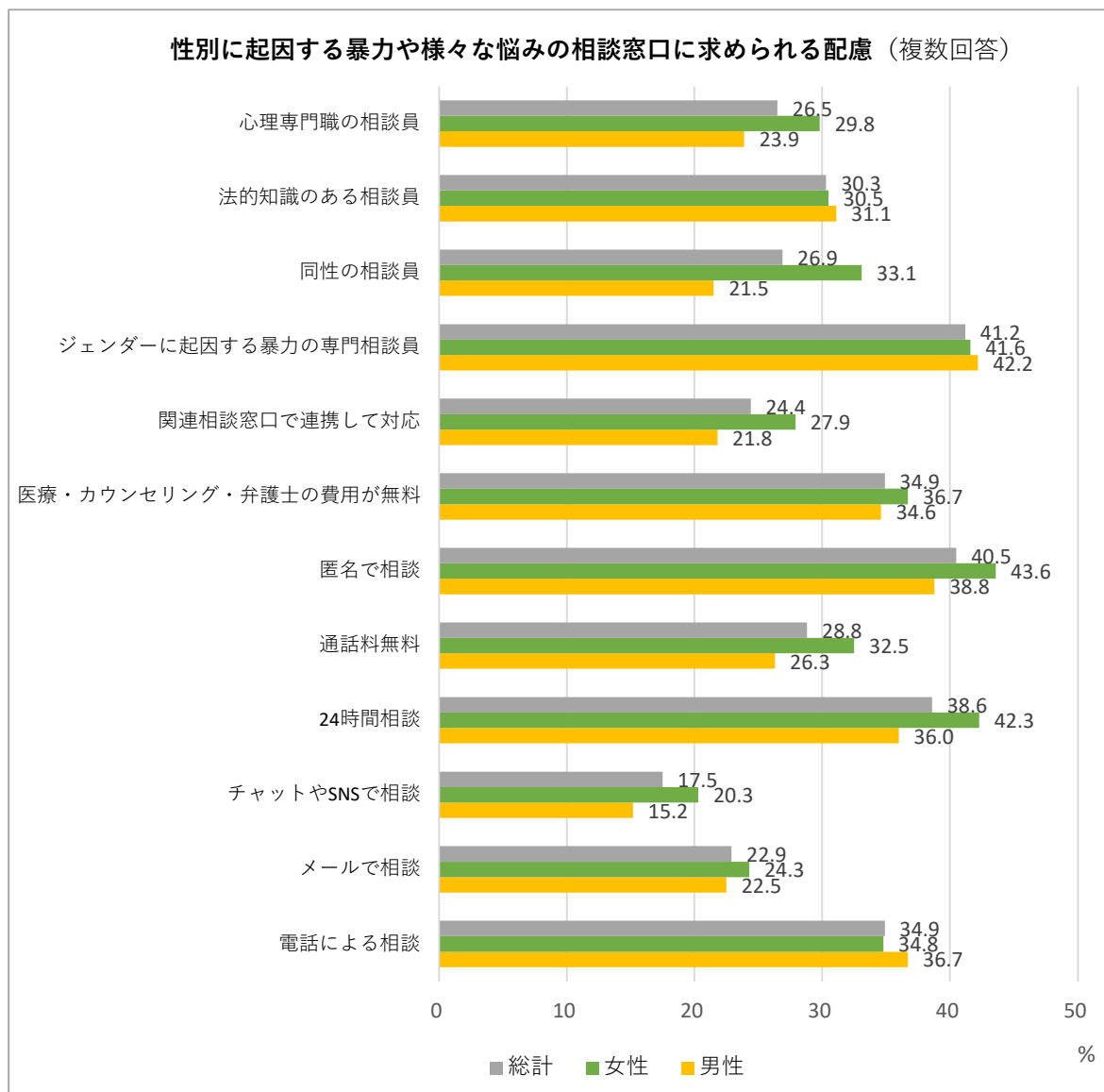
- ・性別に起因する暴力や様々な悩みなどに関する相談窓口などで配慮してもらいたいことについて聞いたところ、『ジェンダーに起因する暴力の専門相談員』（女性41.6%、男性42.2%）、『匿名で相談可能』（女性43.6%、男性38.8%）、『24時間相談』（女性42.3%、男性36.0%）と回答した割合が高い。『電話による相談可能』『医療、カウンセリング、弁護士の費用が無料』、『法的知識のある相談員』も3割を超えている。
- ・ほとんどの項目について、女性の方が男性より回答した割合が高い。

イ 奄美大島町村、全国との比較（グラフ省略）

- ・奄美大島4町村と比較すると、ほぼ同様の傾向であるが、ほとんどの項目で回答した割合が高い。
- ・全国と比較すると、すべての項目で回答した割合が低い。

エ 年代別

- ・『ジェンダーに起因する暴力の専門相談員』は40代、『24時間相談』は40代以下、『匿名で相談可能』は30～40代、『同性の相談員』は30代、『医療、カウンセリング、弁護士の費用が無料』は29歳以下と40代で回答した割合が5割を超えている。
- ・『チャットやSNSで相談可能』と『通話料が無料』は40代以下、『メールで相談可能』と『法的知識のある相談員』、『心理専門職の相談員』は30～50代が、他の年代に比べて回答した割合が高い。



性別に起因する暴力や様々な悩みなどに関する相談窓口等に求める配慮（複数回答）

単位：％

	電話による相談	メールで相談	チャットやSNSで相談	24時間相談	通話料無料	匿名で相談	医療・カウンセリング・弁護士の費用が無料	関連相談窓口で連携して対応	ジェンダーに起因する暴力の専門相談員	同性の相談員	法的知識のある相談員	心理専門職の相談員
総計	34.9	22.9	17.5	38.6	28.8	40.5	34.9	24.4	41.2	26.9	30.3	26.5
女性	34.8	24.3	20.3	42.3	32.5	43.6	36.7	27.9	41.6	33.1	30.5	29.8
男性	36.7	22.5	15.2	36.0	26.3	38.8	34.6	21.8	42.2	21.5	31.1	23.9
18～29歳	30.0	23.3	36.7	60.0	46.7	36.7	60.0	23.3	40.0	23.3	13.3	30.0
30～39歳	22.9	37.5	41.7	58.3	47.9	66.7	37.5	25.0	41.7	54.2	37.5	39.6
40～49歳	41.1	35.6	35.6	58.9	41.1	60.3	56.2	32.9	52.1	45.2	47.9	32.9
50～59歳	43.5	39.1	22.8	39.1	35.9	46.7	40.2	29.3	48.9	31.5	39.1	43.5
60～69歳	35.9	19.6	10.5	34.0	19.0	34.0	32.0	28.8	45.8	21.6	28.8	21.6
70～79歳	34.4	8.2	4.1	27.9	23.0	28.7	24.6	14.8	28.7	14.8	20.5	14.8
80歳以上	28.8	11.5	3.8	23.1	19.2	30.8	13.5	15.4	34.6	15.4	17.3	11.5

(2) 生活上の不安や困難

ア 総計・性別

- ・ 生活の場面の7項目の不安や困難について訊いたところ、「とても感じる」と回答した割合が最も高い項目は『健康』(16.8%)、次いで『災害や事件・事故』(13.7%)。「ある程度感じる」を合わせると61.6%と50.3%。
- ・ 不安や困難を「まったく感じない」と回答した割合が高い項目は、『家族関係』(32.9%)。
- ・ 困難や不安を「とても感じる」と「ある程度感じる」と回答した割合は、ほとんどの項目で男性より女性のほうが高い。

イ 奄美大島町村との比較 (グラフ省略)

不安や困難を「とても感じる」「ある程度感じる」と回答した割合は、ほとんどの項目で奄美大島4町村より高い。

ウ 生活の困窮

- ・ 生活の困窮の不安・困難について、「とても感じる」と回答した割合は女性9.8%、男性8.7%で、「ある程度感じる」を合わせるとそれぞれ36.4%、31.5%。
- ・ 「とても感じる」と回答した割合が高いのは、29歳以下の男性(14.3%)、70代と40代の女性(12.7%、12.5%)。「ある程度感じる」を合わせると50代と60代の女性(53.6%、40.1%)が高い。
- ・ 「とても感じる」と回答した割合は、「単身」男性、「離別・死別」の男性と女性が高く(20.0%、23.1%、17.5%)、「ある程度感じる」を合わせると、それぞれ47.4%、50.0%、48.8%。「単身」の女性も40.6%。

エ 働く場や機会

- ・ 働く場や機会がない・十分に働けていないことへの不安・困難について、男女とも「とても感じる」と回答した割合は約8%、「ある程度感じる」を合わせると約22%。
- ・ 「とても感じる」又は「ある程度感じる」と回答した割合が高いのは、40代男性(36.4%)、「単身」と「未婚」の男性(30.8%、35.6%)。

オ 健康

- ・ 健康への不安について「とても感じる」と回答した割合は、女性は18.0%、男性は16.3%、「ある程度感じる」を合わせると女性は65.9%、男性は59.2%。
- ・ 「とても感じる」「ある程度感じる」と回答した割合が高いのは、70代の男女(女性76.3%、男性71.7%)、「離別・死別」の女性(78.8%)、「未婚」男性(69.5%)。

カ 孤独

- ・ 孤独への不安について、「とても感じる」「ある程度感じる」を合わせると、女性は25.2%、男性は21.8%。
- ・ 「とても感じる」と回答した割合が高いのは40代男性(12.1%)、30代女性(9.7%)。「ある程度感じる」を合わせると、50代の女性が39.0%で最も高い。
- ・ 「とても感じる」と「ある程度感じる」と回答した割合は、「単身」男性(13.8%、24.6%)、「離別・死別」男性(11.5%、30.8%)、「未婚」男性(8.5%、28.8%)が高い。

キ 困ったときの支援

- ・ 困っていても、支援が受けられないことへの不安や困難について、「とても感じている」と回答した割合は、女性は8.9%、男性6.6%で、「ある程度感じる」を合わせると、女性は32.2%、男性30.8%。
- ・ 「とても感じている」と回答した割合は29歳以下の男性が最も高く(21.4%)、次いで50代の女性(14.6%)。「ある程度感じる」を合わせると、それぞれ35.7%と48.7%で、他に80代の女性が高い(41.2%)。
- ・ 「単身」男性(10.8%、36.9%)、「未婚」男性(11.9%、44.1%)、「離別・死別」男性(7.7%、50.0%)も高い。

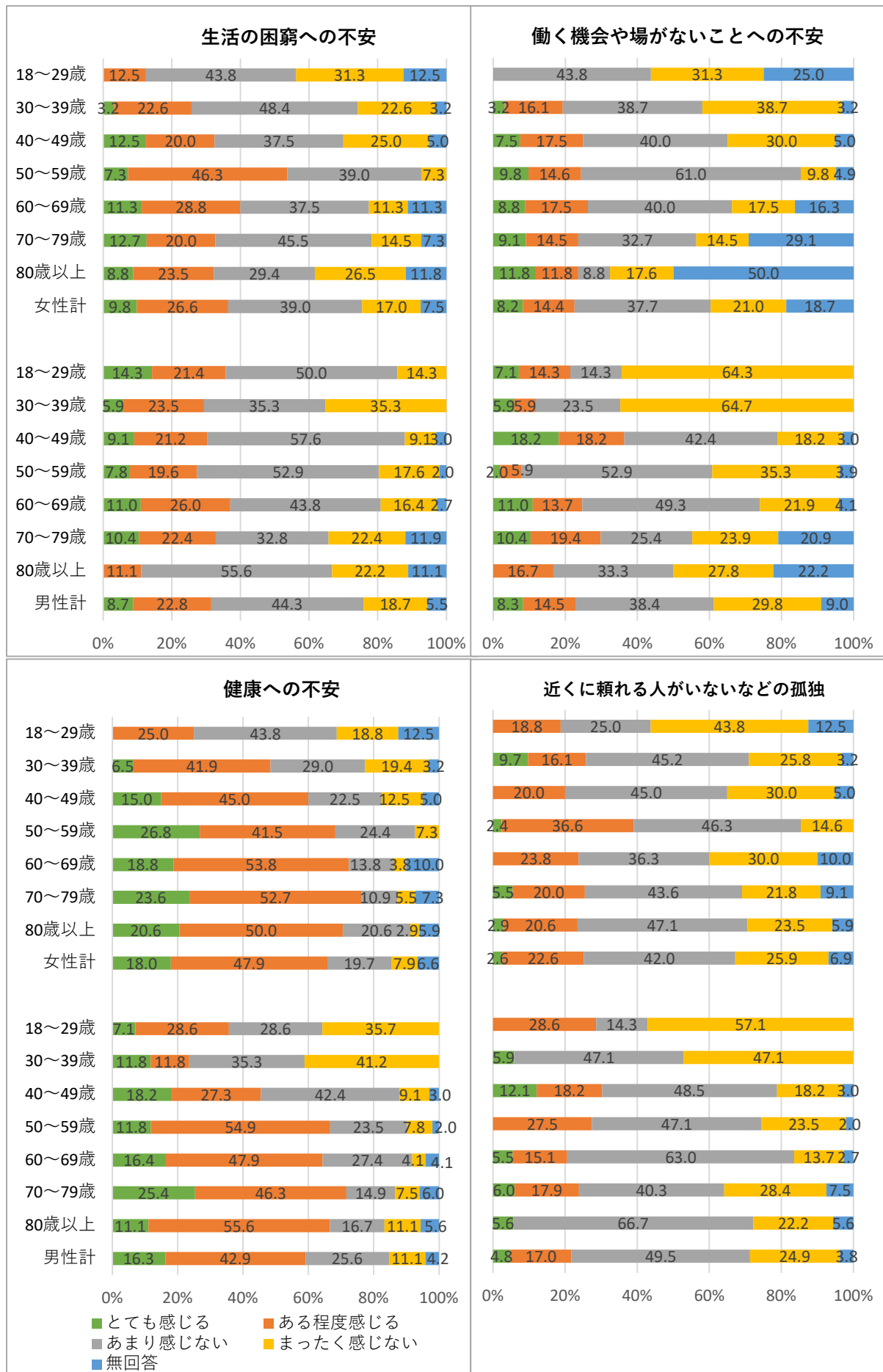
ク 家族関係

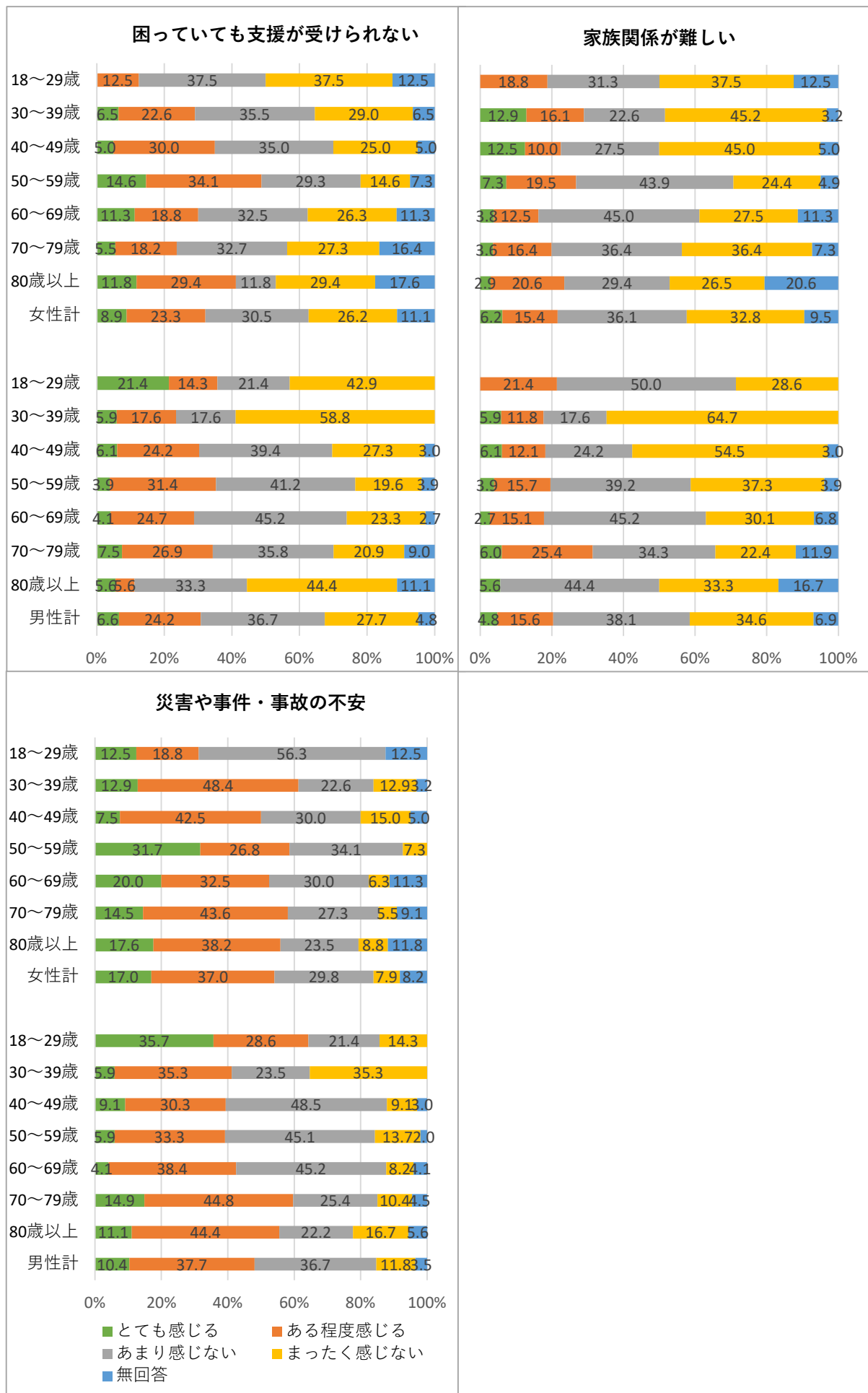
- ・ 家族関係が難しいと「とても感じる」と「ある程度感じる」と回答した割合は、女性は6.2%と15.4%、男性は4.8%と15.6%。
- ・ 「とても感じる」と回答した割合が高いのは、30代と40代の女性(12.9%、12.5%)。「ある程度感じる」を合わせると、それぞれ29.0%と22.5%で、70代男性も高い(31.4%)。
- ・ 「単身」男性で9.2%と21.5%、「離別・死別」男性で11.5%と42.3%。

ケ 災害や事件・事故

- ・ 災害や事件・事故の不安について、「とても感じる」と回答した割合が女性は17.0%、男性は10.4%。「ある程度感じる」と合わせると、女性は54.0%、男性は48.1%。
- ・ 「とても感じる」と回答した割合が高いのは、29歳以下の男性と50代女性(35.7%と31.7%)。「ある程度感じる」を合わせると、それぞれ64.3%と58.5%で、70代の男女も高い(男性59.7%、女性58.1%)。

- ・ 「とても感じる」と回答した割合が高いのは、「離別・死別」女性と「未婚」男性(26.3%と16.9%)。「ある程度感じる」を合わせると、それぞれ61.3%と59.3%。





9 男女共同参画施策について

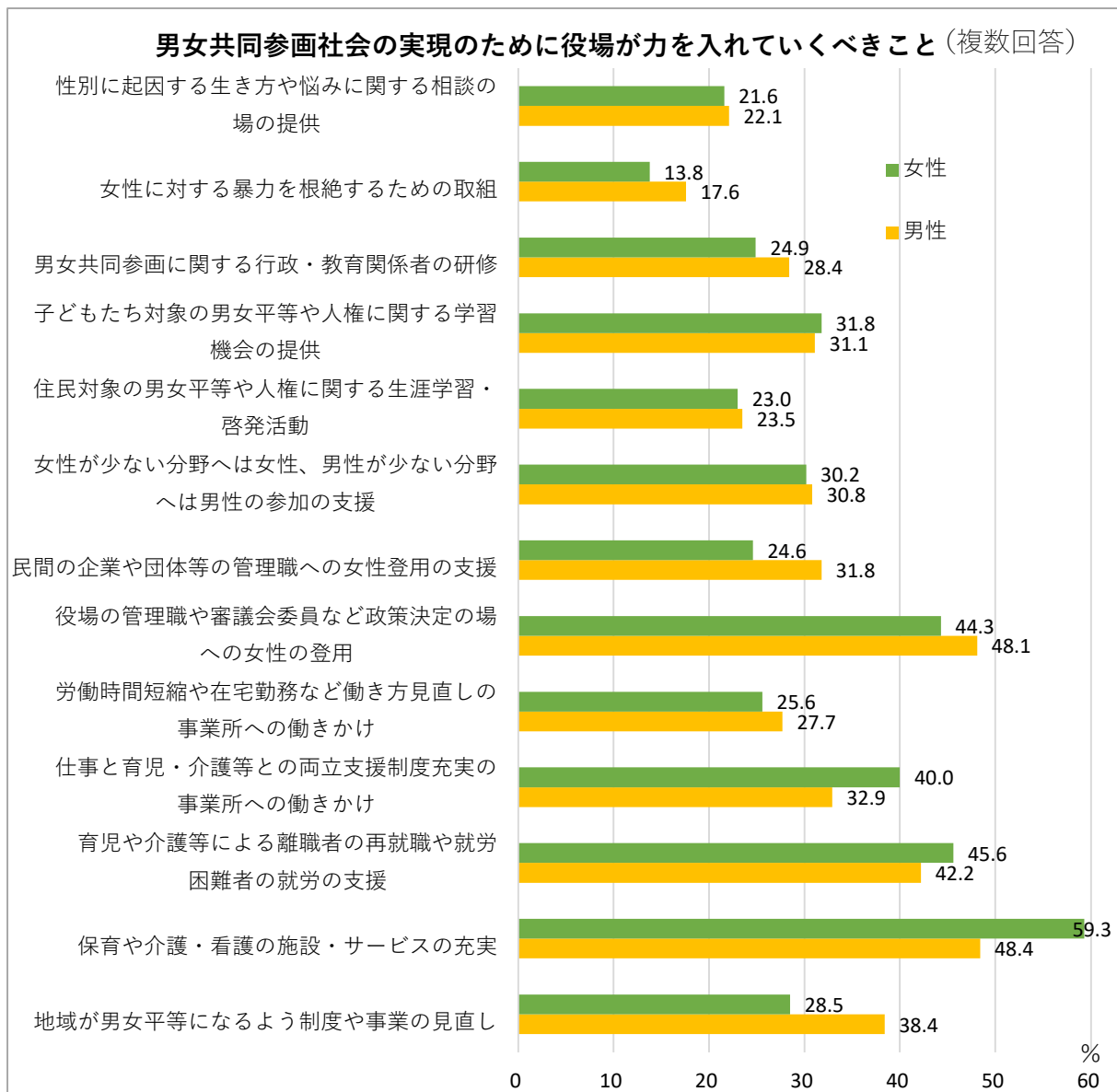
男女共同参画社会を実現するために役場が力を入れていくべきこと

ア 総計、性別

- 男女共同参画社会の実現のために役場が力を入れるべきことについて聞いたところ、『保育・介護サービスの充実』と回答した割合が最も高く(52.9%)、次いで『政策決定の場への女性登用』(45.1%)、『再就職や就労支援』(43.0%)。
- 男女とも同様の傾向だが、女性は『保育・介護サービスの充実』(59.3%)と『仕事と育児・介護等の両立支援制度の事業所への働きかけ』(40.0%)を回答した割合が男性より高く、それら以外のほとんどの項目では男性の方が回答した割合が高い。

イ 性・年代別

- 29歳以下は、男女とも『働き方の見直しの事業所への働きかけ』と回答した割合(女性43.8%、男性57.1%)が高く、男性は『相談の場の提供』も高い(50.0%)。
- 40代以下と60代の女性、80代の男女では、『保育・介護サービスの充実』と回答した割合が6割を超えている。
- 『再就職や就労支援』と回答した割合は、40代女性と80歳以上の男性が特に高い(57.5%と55.6%)。
- 80歳以上の男性は、『企業等管理職への女性の登用』、『住民への生涯学習・啓発活動』、『行政・教育関係者の研修充実』を回答した割合も他の年代より高い。(38.9%、44.4%、38.9%)
- 30・40代女性では、『仕事と育児・介護等の両立支援制度の事業所への働きかけ』と回答した割合が5割。
- 40・60代女性、70代男性では、『政策決定の場への女性登用』で5割を超えている。
- 40代の女性はほとんどの項目でどの年代より回答した割合が高く、役場への期待が大きい傾向がみられる。



男女社会を実現するために役場が力を入れていくべきこと（複数回答）

単位：％

	地域が男女平等になるよう制度や事業の見直し	保育や介護・看護の施設・サービスの充実	育児や介護等による離職者の再就職や就労困難者の就労の支援	仕事と育児・介護等との両立支援制度充実の事業所への働きかけ	労働時間短縮や在宅勤務など働き方見直しの事業所への働きかけ	役場の管理職や審議会委員など政策決定の場への女性の登用	民間の企業や団体等の管理職への女性登用の支援	女性が少ない分野へは女性、男性が少ない分野へは男性の参加の支援	住民対象の男女平等や人権に関する生涯学習・啓発活動	子どもたち対象の男女平等や人権に関する学習機会の提供	男女共同参画に関する行政・教育関係者の研修	女性に対する暴力を根絶するための取組	性別に起因する生き方や悩みに関する相談の場の提供
総 計	32.6	52.9	43.0	35.7	26.0	45.1	27.7	30.0	22.7	30.8	26.0	15.3	21.4
女性計	28.5	59.3	45.6	40.0	25.6	44.3	24.6	30.2	23.0	31.8	24.9	13.8	21.6
18～29歳	37.5	62.5	37.5	37.5	43.8	37.5	18.8	25.0	18.8	37.5	12.5	12.5	25.0
30～39歳	32.3	61.3	41.9	54.8	29.0	41.9	32.3	38.7	22.6	32.3	19.4	9.7	19.4
40～49歳	37.5	60.0	57.5	55.0	40.0	57.5	40.0	47.5	25.0	47.5	35.0	35.0	27.5
50～59歳	39.0	56.1	48.8	48.8	26.8	39.0	26.8	36.6	26.8	24.4	29.3	12.2	22.0
60～69歳	21.3	66.3	42.5	40.0	25.0	53.8	21.3	26.3	23.8	32.5	23.8	13.8	18.8
70～79歳	27.3	47.3	43.6	23.6	18.2	36.4	14.5	25.5	20.0	27.3	25.5	7.3	29.1
80歳以上	14.7	61.8	38.2	26.5	11.8	35.3	26.5	20.6	23.5	23.5	23.5	5.9	8.8
男性計	38.4	48.4	42.2	32.9	27.7	48.1	31.8	30.8	23.5	31.1	28.4	17.6	22.1
18～29歳	35.7	50.0	42.9	21.4	57.1	14.3	7.1	21.4	7.1	14.3	7.1	7.1	50.0
30～39歳	47.1	52.9	29.4	47.1	29.4	41.2	35.3	41.2	29.4	11.8	35.3	23.5	29.4
40～49歳	45.5	36.4	45.5	39.4	36.4	42.4	30.3	39.4	21.2	42.4	21.2	18.2	30.3
50～59歳	37.3	45.1	49.0	35.3	25.5	47.1	35.3	23.5	17.6	25.5	17.6	17.6	21.6
60～69歳	32.9	47.9	35.6	28.8	21.9	49.3	27.4	34.2	19.2	34.2	24.7	19.2	17.8
70～79歳	37.3	47.8	38.8	31.3	23.9	55.2	32.8	29.9	26.9	29.9	38.8	16.4	13.4
80歳以上	27.8	77.8	55.6	22.2	16.7	44.4	38.9	33.3	44.4	38.9	38.9	11.1	16.7

「その他」

- ・ まずはひとりひとりの固定観念を問い、学び合うことによって個人が生きやすくなるための方法を考える。(40代女性)
- ・ 男性に対する暴力を根絶するための取組(50代女性)
- ・ 昭和時代の固定観念があり難しい。(80歳以上男性)

10 男女共同参画社会の実現に向けての意見・要望

男女共同参画社会を実現するために、今後、役場が力を入れていくべきことを訊いたところ、59件の意見等がありました。主な意見は以下のとおりです。 ※紹介している意見等の中には、同じ内容のものをまとめたり、抜粋しているものがあります。

■男女共同参画に関する考え方（意識・風潮）（16件）

- ・ 男女関係なく、自分のやりたいこと、能力を発揮できることに取り組めるようになってほしい。(30代女性)
- ・ 理想と現在はかけ離れているが、周りの人との関係を良好に、互いの権利が尊重される生活をしたい。(40代女性)
- ・ 本人が選択した生き方をできていければいい。(40代男性)
- ・ 町民のジェンダーに関する理解が低い。シンパシーからエンパシーへ共感できるといい。(50代女性)
- ・ 「男性、女性」ではなく能力本位で物事を進めれば、ある程度問題は解決できると思う。(50代男性)
- ・ 男女問わず人格的な特性の考慮が必要(50代男性)
- ・ 若い人達は男女平等は当たり前で意識していないが、昭和生まれの社会通念がまだまだ崩せない。(60代女性)
- ・ 女一人では無理と言われながら自営を続け、結婚していないだけで信用してもらえず、理不尽な事はたくさんあった。今も変わっていない気がする。(60代女性)
- ・ 男女同じ仕事をやるのか、男女平等とは何なのか教えてほしい。(70代男性)
- ・ 女性は両立、三立、五立、ボランティア！賃金が安い。国も政治もできないから、この先も男女平等は無理で悲しい。(年代不明女性)

■子育て・介護（3件）

- ・ 働いていなくても保育所に預けられるようにしてほしい。女性の社会進出を推進する前に、家事・育児への男性の参加を推進してほしい。1.職場での男性の育児等参加の理解向上 2.男性の家事・育児への参加 3.女性の社会進出のサポートを解決しないと、女性は家事・育児・仕事のトリプルワークで苦しい。(30代女性)
- ・ 「海の駅」にある保育園施設に、夕方や土日の保育所が休みの日に預けられたいと思う。(40代女性)
- ・ 女性は仕事だけではなく、子どもや家族のために社会参加しなければいけないことがたくさんある。それに介護などが加わると精神的・身体的に無理が出てくるが、仕事を休むと生活が困窮してしまう。(50代女性)

■職場・労働（11件）

- ・ 法律や政策の整備、育児・介護休業など(10代男性)
- ・ 男性の育休取得をもっと進めてほしい。(30代女性)
- ・ 奄美は仕事の休みが非常に少ない。週休2日にして心身を整え、家族・友人と過ごすと、男女（人）は尊重し合える(40代女性)
- ・ 子どもを預けられるサポートがもっと充実したら妻は希望すれば仕事ができるのに、時間や金銭面で難しい。(40代男性)
- ・ 個人は能力に応じて仕事をし、職場は能力を評価する必要がある。育児、介護、家事は家族で話し合い分担すべき。(50代男性)
- ・ 優秀な人材（特に女性）の採用(60代女性)
- ・ あらゆる仕事に女性も同じように就けるといい。(60代男性)
- ・ 高齢者も、歳だから、女だから、仕事がないからと家にいないで、外に出て一緒に働きましょう。(70代男性)
- ・ 1990年代に社内で男女不平等の実態を分析し、解消策を提案するために「女性フォーラム」を組織。その活動報告を全社大会で行った後、社員教育の平等化、昇給・給与制度の改革が始まった。(80歳以上男性)
- ・ 男(女)性優位の職業に「女(男)性枠」を設けず、能力や情熱のある人が就ければいい。(年代不明女性)
- ・ みんなのために出産していると考えれば、女性の出産休は幾分キャリアに算定していいと思う。(年代不明男性)

■教育・学習・啓発（6件）

- ・ 女性も男性も一人ひとりが大切にされるように、様々な在り方・生き方を認め合えたらうれしい。セクシュアルマイノリティの方も自己を否定せず、「あたりまえ」に生きられますように。変わらないとあきらめるのではなく、大人がまず研修等で学んで変わること、子ども達はよりよく生きることができる。一人ひとりがかけがえのない人生を歩めるように願っている。(40代女性)
- ・ 男女共同参画社会とはどういうことか町民が学び・知っていきたい。(50代・年代不明女性)
- ・ お互いを「個」として尊重する意識を育む教育を小さい頃から継続して行うことが大事（基本）。(60代女性)
- ・ 学校での男女共同参画に関する教育が必要(60代男性)
- ・ 奄美では男性がもっと男女共同参画について学ぶための機会を作るべき。(70代女性)

■地域活動や政治・行政の場（4件）

- ・ 政治家や経済の場に女性を増やして欲しい。(30代女性)
- ・ 女性自身の意識も高めていくことが必要。そのモデルとなるのが役場の女性登用であると思う。(60代女性)
- ・ 女性の社会的地位の向上と政治への女性の意見の反映のため、地方自治体・国の議会議員の男女比率を原則半々とする世論づくりをすべき。(70代男性)
- ・ 町議の数を男女が半々位にする。(70代男性)

■取組の方向・方策（15件）

- ・ 女性の地位向上だけでなく、男性の負担軽減の目標もあって良い。(30代男性)
- ・ 実施する人がきちんと理解する。(40代男性)
- ・ 男女を分けることで不平等が育つ。「個」「個人」であり、「一つの場所」と「個」をつなげる政策を。(30代男性)
- ・ 男女共同参画という名称を変えてほしい。(40代・50代男性)
- ・ 瀬戸内町（奄美？）では、女性は活動に参画することに遠慮したり周りを気にする傾向がある。得意な分野で能力を発揮できる場があることを発信して欲しい。能力のある女性はたくさんいるが、その能力を社会で活かしていない。(50代女性)
- ・ 役場の方は一般の方の話をきちんと聞いて、議会にあげて話し合いをし、瀬戸内町のために新時代を築いていきましょう。(50代女性)
- ・ 公の場に出て男女共同参の普及活動してほしい。(50代男性)
- ・ 思い描いていたことが実現に向けてスタートラインに立てたことをうれしく思う。まずは役場職員が部署を超えてコミュニケーションを取り、先頭になり住民を引っ張ってほしい。私も一町民として出来る事は実行したい。男女共同参画で元気に生き生きと生活できる町に近づくことを願っている。(60代女性)
- ・ 特に高齢者の意識の改革(70代男性)
- ・ 差別しない社会の実現に向けて官民一体となって努力すべし。(70代男性)
- ・ 管理職や住民の男女平等や人権についての意識改革が必要。(80歳以上女性)

■調査・その他（4件）

- ・ 男性か女性かと質問することも、デリケートな質問であることと認識して欲しい。(40代女性)
- ・ 意味のあるアンケート結果にして下さい。(50代男性)

奄美大島4町村（大和村/宇検村/瀬戸内町/龍郷町）合同実施 **男女共同参画に関する住民意識調査票**

※紙面にあわせて実際の調査票のレイアウトを変更しています。

問1 あなたは、次の(1)から(8)の分野及び町全体で見た場合に、男女の地位は平等になっていると思いますか。あなたの気持ちに最も近いものに○をつけてください。（それぞれ○は1つ）

- (1) 家庭生活、(2) 職場、(3) 学校教育の場、(4) 政治の場、(5) 法律や制度の上
(6) 社会通念・慣習・しきたりなど、(7) 自治会やPTAなどの地域活動の場、(8) 町全体で見た場合

選択肢番号	選択肢の内容
1	男性の方が非常に優遇されている
2	どちらかといえば男性の方が優遇されている
3	平等である
4	どちらかといえば女性の方が優遇されている
5	女性の方が非常に優遇されている

問2 あなたが男女の地位が不平等と感じていることがありましたら、教えてください。

--

問3 一般的に女性が職業をもつことについて、あなたはどのように考えですか。あなたのお考えに最も近いものに○をつけてください。（○は1つ）

選択肢番号	選択肢の内容
1	女性は職業をもたないほうがよい
2	結婚するまでは職業をもつ方がよい
3	子どもができるまでは、職業をもつ方がよい
4	子どもができて、ずっと職業をもち続ける方がよい
5	子どもができたら職業をやめ、子どもが大きくなったら職業をもつ方がよい

問4 「男性(夫)は外で働き、女性(妻)は家庭を守るべきである」といった性別を理由に役割を固定的にわける考え方について、あなたの気持ちに最も近いものに○をつけてください。（○は1つ）

選択肢番号	選択肢の内容	次に回答する問
1	賛成	→問5へ
2	どちらかといえば賛成	→問5へ
3	どちらかといえば反対	→問6へ
4	反対	→問6へ

問5 問4で「1. 賛成」又は「2. どちらかといえば賛成」と答えた方にお聞きします。賛成と思うのはなぜですか。（○はいくつでも）

選択肢番号	選択肢の内容
1	日本の伝統的な考え方や男女・夫婦の在り方だと思うから
2	自分の父親は外で働き、母親は家を守っているから・いたから
3	男性が外で働いた方が、多くの収入が得られると思うから
4	女性が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから
5	育児・介護・家事と両立しながら、女性が働き続けることは大変だと思うから
6	性別によって特性や能力、向き・不向きが違うと思うから
7	その他（具体的に ）

問6 問4で「3. どちらかといえば反対」又は「4. 反対」と答えた方にお聞きします。反対と思うのはなぜですか（○はいくつでも）

選択肢番号	選択肢の内容
1	男女平等に反すると思うから
2	自分の両親は共働きだから・だったから
3	共働きする方が、多くの収入が得られると思うから
4	女性が働いて能力を発揮したほうが、個人や社会にとって良いと思うから
5	育児・介護・家事を男女で分担したり、職場環境や社会制度の整備などにより、女性が働き続けることは可能だと思うから
6	個性や能力、向き・不向きは性別では決まらないと思うから
7	その他（具体的に ）

問7 あなたは、今後、男性が育児や介護、家事、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。（○はいくつでも）

選択肢番号	選択肢の内容
1	男性が育児・家事に参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと
2	男性が育児・家事に参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと
3	夫婦や家族間のコミュニケーション（お互いの気持ちなどを言葉で伝え合い、お互いにわかり合おうとすること）をよくはかること
4	年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担などについての当事者の考え方を尊重すること
5	社会の中で、男性による育児・家事などについても、その評価を高めること
6	男性による育児・家事などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること
7	労働時間の短縮や休暇制度、テレワーク（情報通信技術を活用し時間や場所の制約を受けずに、柔軟に働く形態）などの多様な働き方を普及することで、仕事以外の時間をより多く持つようにすること
8	男性の育児・家事などについて、啓発や情報提供、相談窓口の設置、技能の研修を行うこと
9	男性が育児・家事などを行うための、仲間づくりやネットワークづくりをすすめること
10	その他（具体的に ）

問8 次の(1)から(3)の子育ての考え方について、あなたの気持ちに最も近いものに○をつけてください。(それぞれ○は1つ)

- (1)「男女ともに同等に経済的自立ができるよう職業人としての教育が必要」という考え方
 (2)「男女ともに炊事・掃除・洗濯など生活に必要な技術を身につけるほうがよい」という考え方
 (3)「男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てたほうがよい」という考え方

選択肢番号	選択肢の内容
1	賛成
2	どちらかといえば賛成
3	どちらかといえば反対
4	反対

問9 現在、結婚している方(事実婚を含む。)にお聞きします。あなたの家庭では、次の(1)から(4)について、どのように分担していますか。(育児と介護・看護については、現在行っていないでも過去の経験があれば、それをもとに選んでください。)(○は1つ)

- (1)家事、(2)育児、(3)介護・看護、(4)自治会やPTAなど地域活動への参加

選択肢番号	選択肢の内容
1	自分と配偶者(パートナー)で半分ずつ分担
2	自分の方が配偶者(パートナー)より多く分担
3	配偶者(パートナー)の方が自分より多く分担
4	1から3以外の方法で分担(具体的に)

問10 雇用されて仕事をされている方にお聞きします。あなたの職場では、次のようなことがありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

選択肢番号	選択肢の内容
1	募集・採用の機会に男女で格差がある
2	賃金に男女で格差がある
3	女性を補助的な業務や雑用に従事させる傾向にある
4	昇進・昇格に男女で格差がある
5	管理職の登用に男女で差がある
6	女性は結婚や出産により退職する慣例や雰囲気がある
7	中高年女性には退職を促すような雰囲気がある
8	研修や教育訓練、出張・視察などの機会に男女で差がある
9	男性は育児休業や介護休業を取りにくい雰囲気がある
10	男女ともに育児休業や介護休業を取りにくい雰囲気がある
11	同じ職場に夫婦が働いている場合、どちらかは働き続けにくい雰囲気がある
12	正規雇用と非正規雇用で処遇の格差が大きい
13	その他(具体的に)
14	性別による格差はない

問11 女性が職業生活で能力を発揮するためには、特にどのようなことが必要だと思いますか。あてはまるものに○をつけてください。(○は1つ)

選択肢番号	選択肢の内容
1	長時間労働の是正やテレワークの推進など、男女がともに育児や介護、家事などを担うことができる職場環境の整備
2	休業制度や短時間勤務制度など、仕事と育児や介護の両立を支援するための施策の整備
3	保育所や放課後児童クラブ施設、介護施設など、育児や介護をサポートする施設やサービスの整備
4	経営者や管理職の意識改革
5	男性の家事や育児、介護などへの参画を促進するための意識啓発
6	女性のキャリアアップを図るための研修やネットワークづくり
7	女性の就職・再就職の支援
8	その他(具体的に)

問12 あなたはこれまでに、交際相手や元交際相手、配偶者や元配偶者(「配偶者」には、事実婚や別居中の配偶者を含む。)から次のようなことをされたことがありますか。

- (1) 10代または20代の時の交際相手や元交際相手について、あてはまるものに○をつけてください。

選択肢番号	選択肢の内容	次に回答する問
1	なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなど、身体に対する暴力があった	→問13へ
2	人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの嫌がらせ、あるいは、あなたやあなたの家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫など、精神的な暴力があった	→問13へ
3	嫌がっているのに性的な行為を強要するなど、性的な暴力があった	→問13へ
4	1～3のいずれもなかった	→問14へ
5	10～20代の時に交際相手や元交際相手はいなかった	→問14へ

- (2) 配偶者が現在いる方、又は過去にいた方について、お聞きします。配偶者や元配偶者からの次のア～ウについて、あてはまるものに○をつけてください。

ア なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴力

イ 人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの嫌がらせ、あるいは、あなたやあなたの家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫などの精神的な暴力

ウ 嫌がっているのに性的な行為を強要するなどの性的な暴力

選択肢番号	選択肢の内容	次に回答する問
1	1、2度あった	→問13へ
2	何度もあった	→問13へ
3	まったくなかった	→問14へ

問 13 問 12 の(1)で1～3のいずれかを答えた方、あるいは(2)のA～ウのいずれかで1又は2と答えた方にお聞きます。あなたは、そのことを誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。あてはまるものに○をつけてください。(○はいくつでも)

選択肢番号	選択肢の内容
1	家族や親戚に相談した
2	友人、知人に相談した
3	学校関係者(教員、養護教員、スクールカウンセラーなど)に相談した
4	医療関係者(医師、看護師、助産師など)に相談した
5	民間の専門家や専門機関(弁護士・弁護士会、カウンセラー、カウンセリング機関、民間シェルターなど)に相談した
6	犯罪被害者支援センターや配偶者暴力相談支援センター(県女性相談センター、県男女共同参画センター、大島支庁福祉課など)に相談した
7	警察に連絡・相談した
8	法務局や人権擁護委員に相談した
9	町の相談窓口(住民相談など)に相談した
10	他の市町村の相談窓口(婦人相談員など)に相談した
11	上記6～10以外の公的な機関に相談した
12	その他(具体的に)
13	どこ(だれ)にも相談しなかった(できなかった)

問 14 すべての方にお聞きます。あなたは、性別に起因する暴力や様々な悩みなどに関する相談窓口などで配慮してほしいと思うことは何ですか。(○はいくつでも)

選択肢番号	選択肢の内容
1	DV(配偶者等からの暴力)やストーカー行為、セクシュアルハラスメント、性暴力など性別に起因する暴力に関する専門の相談員がいる
2	メールによる相談ができる
3	チャット(インターネットを介したリアルタイムの会話)、SNS(インターネット上で利用者同士がつながれるような場所を提供するサービスで、フェイスブックやツイッター、ラインなど)による相談ができる
4	電話による相談ができる
5	通話料が無料
6	24時間相談ができる
7	医療費、カウンセリング費用、弁護士費用などが、無料で支援が受けられる
8	相談内容に応じて、関連する他の相談窓口との連携が行われる
9	同性の相談員がいる
10	匿名で相談ができる
11	弁護士など、法的知識のある相談員がいる
12	臨床心理士や公認心理士など、心理専門職の相談員がいる
13	その他(具体的に)

問 15 男性の方にお聞きます。職場や学校、家庭などの場で、「男だから」という固定観念やプレッシャーにより生きづらさや不便さを感じることはありますか。(○は1つ)

選択肢番号	選択肢の内容	次に回答する問
1	頻繁に感じる	→問 16 へ
2	たまに感じる	→問 16 へ
3	あまり感じない	→問 17 へ
4	まったく感じない	→問 17 へ

問 16 問 15 で「1. 頻繁に感じる」又は「2. たまに感じる」と答えた方にお聞きます。

(1) どのようなことに対して「生きづらさ」や「不便さ」を感じますか。あてはまるものに最大3つまで○をつけてください。

選択肢番号	選択肢の内容
1	デートで、男性がお金を多く負担したり女性をリードすべきという風潮
2	男性は定年までフルタイムの正社員で働くべきという考え
3	力仕事や危険な仕事は男の仕事という考え
4	高収入でなければならないというプレッシャー
5	「一家の大黒柱」でいなければならないというプレッシャー
6	男性は弱音を吐いたり、悩みを打ち明けることは恥ずかしいという考え
7	職場で出世したり、活躍しなければならないというプレッシャー
8	職場や地域活動等でリーダーは男性という考え
9	働きながらも、家事や育児、介護など家庭のことをすることが求められること
10	仕事中心の生活で、家事や育児、介護など家庭のことに十分関われないこと
11	家庭のことに関わりにくくする周囲の意識(家庭のことは女性の仕事という意識など)や環境(男性用トイレにおむつ交換台がないなど)
12	その他(具体的に)

(2) 「生きづらさ」や「不便さ」の具体的なエピソードがありましたら、教えてください。

--

問 17 あなたの最近の生活で、次の(1)～(7)について感じることはありますか。あてはまるものに○をつけてください。(それぞれ○は1つ)

- (1) 生活に困窮している、(2) 十分に働けていない、働く場や機会がない、(3) 健康に不安を感じる、
 (4) 近くに頼れる人がいないなど自分は孤独であると感じる、(5) 困っていても支援が受けられないと感じる
 (6) 家族との関係が難しいと感じる、(7) 災害や事件・事故の不安がある

選択肢番号	選択肢の内容
1	とても感じる

2	ある程度感じる
3	あまり感じない
4	まったく感じない

問 18 あなたは「男女共同参画社会」※を実現するために、今後、役場はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。(〇はいくつでも)
 ※「男女共同参画社会」とは、誰もが互いにその人権を尊重しつつ喜びも責任も分かち合い、性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮することができる社会

選択肢番号	選択肢の内容
1	地域が男女平等になるよう制度や事業の見直しを行う
2	役場の管理職や審議会委員など、政策決定の場に女性を積極的に登用する
3	民間企業や団体などの管理職に女性の登用が進むように支援する
4	女性や男性の生き方や悩みに関する相談の場を提供する
5	女性が少ない分野への女性の参加、男性が少ない分野への男性の参加を支援する
6	保育の施設やサービス、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する
7	子どもたちへの男女平等や人権についての学習機会を充実する
8	労働時間の短縮や在宅勤務制度の導入など働き方の見直しを事業所に働きかける
9	仕事と育児・介護などとの両立支援制度の充実を事業所に働きかける
10	育児や介護などで一旦仕事を辞めた人の再就職や就労に困難を抱えている人の就職を支援する
11	住民への男女平等や人権についての生涯学習や啓発活動を進める
12	女性に対する暴力を根絶するための取組を進める
13	男女共同参画に関する行政・教育関係者の研修を充実する
14	その他(具体的に)

問 19 男女共同参画社会の実現に向けて、ご意見・ご要望などがありましたら、ご自由にお書きください。

町民の皆様からご回答いただいたものを統計的に集計・分析するために、あなたご自身のことをおうかがいします。

F1 あなたの性別をお答えください。(〇は1つ)

選択肢番号	選択肢の内容
1	女性
2	男性
3	()

F2 あなたの年齢は、2023(令和5)年7月

1日現在で満何歳ですか。(〇は1つ)

選択肢番号	選択肢の内容
1	18～19歳
2	20～29歳
3	30～39歳
4	40～49歳
5	50～59歳
6	60～69歳
7	70～79歳
8	80歳以上

F3 あなたのお仕事は、次のどれに当たりますか。(〇は1つ)

選択肢番号	選択肢の内容
1	役員、正規の社員・職員・従業員
2	期間従業員や契約社員、派遣社員を含む非正規の職員・社員・従業員
3	自分で、または共同で事業を営んでいる自営業主、自由業
4	家族従業員・家族が営んでいる事業を手伝っている者
5	主婦・主夫
6	学生
7	無職
8	その他(具体的に)

F4 あなたは結婚していますか。(〇は1つ)

選択肢番号	選択肢の内容	次に回答する問
1	結婚している	→F5へ
2	婚姻届出をしていないが、事実上の婚姻関係にある	→F5へ
3	離別・死別	→F6へ
4	未婚	→F6へ

F5 F4で1又は2と答えた方に、お二人の仕事の有無についてお聞きします。

なお、仕事とは、F3の1～4などのことをいいます。(〇は1つ)

選択肢番号	選択肢の内容
1	二人とも仕事がある
2	自分のみ仕事がある
3	配偶者(パートナー)のみ仕事がある
4	どちらも仕事がない
5	その他(具体的に)

F6 あなたの世帯の状況は、次のどれにあてはまりますか。

(〇は1つ)

選択肢番号	選択肢の内容
1	単身世帯
2	夫婦世帯
3	二世帯世帯(親と子など)
4	三世帯世帯(親と子と孫など)
5	その他(具体的に)

F7 お子さんがいらっしゃる方に、お子さんについてお聞きします。あてはまるものすべてに〇をつけてください。

選択肢番号	選択肢の内容
1	乳幼児
2	小学生(2011(平成23)年4月2日～2017(平成29)年4月1日生まれ)
3	中学生(2008(平成20)年4月2日～2011(平成23)年4月1日生まれ)
4	高校・高専生、専門学校・短大・大学生
5	上記4以外の未婚の子ども(2008(平成20)年4月1日以前生まれ)
6	上記4以外の結婚している子ども(2008(平成20)年4月1日以前生まれ)

男女共同参画の関する住民意識調査結果の概要

2023 年 3 月

瀬戸内町企画課

〒894-1506 鹿児島県大島郡瀬戸内町船津 23

TEL 0997-72-1111

E-mail kikaku@town.setouchi.lg.jp